

2026年度（令和8年度）

歯科衛生士科Ⅰ部

時間割・シラバス

東京医学技術専門学校

2026年度 行事予定表

4月			5月			6月			7月			8月			9月							
1	水	1 2 3	1 金	1 2 3	創立記念日	1	月	1 2 3	1	水	1 2 3	合同実習① 合同実習①	1	土	1 2 3	1	火	1 2 3	前期授業再開 前期授業再開 ガイダンス			
2	木	1 2 3	2 土	1 2 3		2	火	1 2 3	2	木	1 2 3	1 2 3	2 2 3	2 1 2 3	2 1 2 3	2	水	1 2 3	1 2 3	追・再試験 追・再試験 第Ⅲ期臨床実習開始		
3	金	1 2 3	3 日	1 2 3		3	水	1 2 3	3	金	1 2 3	1 2 3	1 2 3	3	月	1 2 3	3	木	1 2 3	1 2 3	1 2 3	前期授業終了
4	土	1 2 3	4 月	1 2 3	みどりの日	4	木	1 2 3	4	土	1 2 3	1 2 3	4	火	1 2 3	4	金	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
5	日	1 2 3	5 火	1 2 3		5	金	1 2 3	5	日	1 2 3	1 2 3	5	水	1 2 3	5	土	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	追・再試験
6	月	1 2 3	6 水	1 2 3		6	土	1 2 3	6	月	1 2 3	1 2 3	6	木	1 2 3	6	日	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
7	火	1 2 3	7 木	1 2 3	普通救命講習①	7	日	1 2 3	7	火	1 2 3	1 2 3	7	金	1 2 3	7	月	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
8	水	1 2 3	8 金	1 2 3		8	月	1 2 3	8	水	1 2 3	1 2 3	8	土	1 2 3	8	火	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
9	木	1 2 3	9 土	1 2 3		9	火	1 2 3	9	木	1 2 3	1 2 3	9	日	1 2 3	9	水	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	予備日
10	金	1 2 3	10 日	1 2 3	第Ⅱ期臨床実習開始	10	水	1 2 3	10	金	1 2 3	1 2 3	10	月	1 2 3	10	木	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
11	土	1 2 3	11 月	1 2 3		11	木	1 2 3	11	土	1 2 3	1 2 3	11	火	1 2 3	11	金	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
12	日	1 2 3	12 火	1 2 3		12	金	1 2 3	12	日	1 2 3	1 2 3	12	水	1 2 3	12	土	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
13	月	1 2 3	13 水	1 2 3	普通救命講習②	13	土	1 2 3	13	月	1 2 3	1 2 3	13	木	1 2 3	13	日	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
14	火	1 2 3	14 木	1 2 3		14	日	1 2 3	14	火	1 2 3	1 2 3	14	金	1 2 3	14	月	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
15	水	1 2 3	15 金	1 2 3		15	月	1 2 3	15	水	1 2 3	1 2 3	15	土	1 2 3	15	火	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
16	木	1 2 3	16 土	1 2 3	衛生教育見学	16	火	1 2 3	16	木	1 2 3	1 2 3	16	日	1 2 3	16	水	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
17	金	1 2 3	17 日	1 2 3		17	水	1 2 3	17	金	1 2 3	1 2 3	17	月	1 2 3	17	木	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
18	土	1 2 3	18 月	1 2 3		18	木	1 2 3	18	土	1 2 3	1 2 3	18	火	1 2 3	18	金	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
19	日	1 2 3	19 火	1 2 3	HBワクチン1回目	19	金	1 2 3	19	日	1 2 3	1 2 3	19	水	1 2 3	19	土	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
20	月	1 2 3	20 水	1 2 3		20	土	1 2 3	20	月	1 2 3	1 2 3	20	木	1 2 3	20	日	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
21	火	1 2 3	21 木	1 2 3		21	日	1 2 3	21	火	1 2 3	1 2 3	21	金	1 2 3	21	月	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	敬老の日
22	水	1 2 3	22 金	1 2 3	HBワクチン2回目	22	月	1 2 3	22	水	1 2 3	1 2 3	22	土	1 2 3	22	火	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	国民の休日
23	木	1 2 3	23 土	1 2 3		23	火	1 2 3	23	木	1 2 3	1 2 3	23	日	1 2 3	23	水	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	秋分の日
24	金	1 2 3	24 日	1 2 3		24	水	1 2 3	24	金	1 2 3	1 2 3	24	月	1 2 3	24	木	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
25	土	1 2 3	25 月	1 2 3	医療のお仕事体験フェスタ	25	木	1 2 3	25	土	1 2 3	1 2 3	25	火	1 2 3	25	金	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
26	日	1 2 3	26 火	1 2 3		26	金	1 2 3	26	日	1 2 3	1 2 3	26	水	1 2 3	26	土	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
27	月	1 2 3	27 水	1 2 3		27	土	1 2 3	27	月	1 2 3	1 2 3	27	木	1 2 3	27	日	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
28	火	1 2 3	28 木	1 2 3	フェスタ振替休日	28	日	1 2 3	28	火	1 2 3	1 2 3	28	金	1 2 3	28	月	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
29	水	1 2 3	29 金	1 2 3		29	月	1 2 3	29	水	1 2 3	1 2 3	29	土	1 2 3	29	火	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
30	木	1 2 3	30 土	1 2 3		30	火	1 2 3	30	木	1 2 3	1 2 3	30	日	1 2 3	30	水	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3	1 2 3
			31 日	1 2 3								31 金	1 2 3		31 月	1 2 3						

10月			
1	木	1 2 3	後期授業開始
2	金	1 2 3	追・再試験対象者発表 追・再試験対象者発表
3	土	1 2 3	
4	日	1 2 3	
5	月	1 2 3	
6	火	1 2 3	
7	水	1 2 3	
8	木	1 2 3	
9	金	1 2 3	
10	土	1 2 3	
11	日	1 2 3	
12	月	1 2 3	スポーツの日
13	火	1 2 3	追・再試験 追・再試験
14	水	1 2 3	追・再試験 追・再試験
15	木	1 2 3	追・再試験 追・再試験
16	金	1 2 3	追・再試験 追・再試験
17	土	1 2 3	追・再試験 追・再試験
18	日	1 2 3	
19	月	1 2 3	
20	火	1 2 3	HBワクチン3回目
21	水	1 2 3	
22	木	1 2 3	
23	金	1 2 3	
24	土	1 2 3	歯科 I OC
25	日	1 2 3	
26	月	1 2 3	
27	火	1 2 3	
28	水	1 2 3	
29	木	1 2 3	
30	金	1 2 3	
31	土	1 2 3	

11月			
1	日	1 2 3	
2	月	1 2 3	
3	火	1 2 3	文化の日
4	水	1 2 3	
5	木	1 2 3	
6	金	1 2 3	
7	土	1 2 3	
8	日	1 2 3	
9	月	1 2 3	
10	火	1 2 3	
11	水	1 2 3	第Ⅲ期臨床実習終了
12	木	1 2 3	後期科目試験
13	金	1 2 3	
14	土	1 2 3	
15	日	1 2 3	
16	月	1 2 3	第Ⅲ期臨床実習まとめ
17	火	1 2 3	短期試験・HB(抗体検査) 国家試験対策
18	水	1 2 3	国家試験対策
19	木	1 2 3	国家試験対策
20	金	1 2 3	国家試験対策
21	土	1 2 3	歯科 I OC
22	日	1 2 3	
23	月	1 2 3	勤労感謝の日
24	火	1 2 3	国家試験対策
25	水	1 2 3	国家試験対策
26	木	1 2 3	短期科目終了試験 国家試験対策
27	金	1 2 3	国家試験対策
28	土	1 2 3	
29	日	1 2 3	
30	月	1 2 3	予備日 国家試験対策授業開始

12月			
1	火	1 2 3	後期授業終了・科目終了試験 模擬試験Ⅴ
2	水	1 2 3	科目終了試験
3	木	1 2 3	科目終了試験
4	金	1 2 3	科目終了試験・HR
5	土	1 2 3	歯科 I OC
6	日	1 2 3	
7	月	1 2 3	臨床予備実習
8	火	1 2 3	臨床予備実習
9	水	1 2 3	臨床予備実習
10	木	1 2 3	短期科目終了試験 臨床予備実習
11	金	1 2 3	短期科目終了試験 臨床予備実習
12	土	1 2 3	
13	日	1 2 3	
14	月	1 2 3	臨床予備実習
15	火	1 2 3	臨床予備実習 臨床試験Ⅵ
16	水	1 2 3	臨床予備実習
17	木	1 2 3	予備実習まとめ・登院式
18	金	1 2 3	臨床実習前説明・施設発表 自宅学習
19	土	1 2 3	
20	日	1 2 3	
21	月	1 2 3	冬期休暇開始・追・再試験 冬期休暇開始
22	火	1 2 3	追・再試験
23	水	1 2 3	冬期休暇開始 追・再試験
24	木	1 2 3	
25	金	1 2 3	
26	土	1 2 3	
27	日	1 2 3	
28	月	1 2 3	学校休校日
29	火	1 2 3	学校休校日
30	水	1 2 3	学校休校日
31	木	1 2 3	学校休校日

1月			
1	金	1 2 3	元日
2	土	1 2 3	学校休校日
3	日	1 2 3	
4	月	1 2 3	学校休校日
5	火	1 2 3	ガイダンス
6	水	1 2 3	後期授業再開 第Ⅰ期臨床実習開始 後期授業再開
7	木	1 2 3	2 年次模擬試験Ⅰ
8	金	1 2 3	模擬試験Ⅵ
9	土	1 2 3	歯科 I OC
10	日	1 2 3	
11	月	1 2 3	成人の日
12	火	1 2 3	特別休講
13	水	1 2 3	
14	木	1 2 3	
15	金	1 2 3	追・再試験
16	土	1 2 3	
17	日	1 2 3	
18	月	1 2 3	総合学力試験Ⅰ
19	火	1 2 3	
20	水	1 2 3	
21	木	1 2 3	
22	金	1 2 3	
23	土	1 2 3	
24	日	1 2 3	
25	月	1 2 3	
26	火	1 2 3	模擬試験Ⅶ
27	水	1 2 3	
28	木	1 2 3	
29	金	1 2 3	
30	土	1 2 3	
31	日	1 2 3	

2月			
1	月	1 2 3	総合学力試験Ⅱ
2	火	1 2 3	
3	水	1 2 3	
4	木	1 2 3	
5	金	1 2 3	
6	土	1 2 3	歯科 I OC
7	日	1 2 3	
8	月	1 2 3	
9	火	1 2 3	
10	水	1 2 3	
11	木	1 2 3	建国記念の日
12	金	1 2 3	後期授業終了
13	土	1 2 3	
14	日	1 2 3	
15	月	1 2 3	科目終了試験 総合学力試験Ⅲ
16	火	1 2 3	科目終了試験
17	水	1 2 3	科目終了試験 卒業発表
18	木	1 2 3	科目終了試験
19	金	1 2 3	科目終了試験
20	土	1 2 3	
21	日	1 2 3	振替休日
22	月	1 2 3	科目終了試験・HR 国試対策試験
23	火	1 2 3	天皇誕生日
24	水	1 2 3	
25	木	1 2 3	追・再試験対象者発表
26	金	1 2 3	
27	土	1 2 3	
28	日	1 2 3	

3月			
1	月	1 2 3	
2	火	1 2 3	追・再試験
3	水	1 2 3	追・再試験
4	木	1 2 3	追・再試験
5	金	1 2 3	追・再試験 登校日
6	土	1 2 3	
7	日	1 2 3	歯科衛生士国家試験
8	月	1 2 3	追・再試験 登校日
9	火	1 2 3	歯科 I OC
10	水	1 2 3	
11	木	1 2 3	
12	金	1 2 3	
13	土	1 2 3	
14	日	1 2 3	
15	月	1 2 3	卒業式参列 卒業式
16	火	1 2 3	
17	水	1 2 3	進級発表
18	木	1 2 3	春季休暇開始
19	金	1 2 3	
20	土	1 2 3	
21	日	1 2 3	春分の日
22	月	1 2 3	振替休日(春分の日)
23	火	1 2 3	まとめ・進級・実習発表
24	水	1 2 3	春期休暇開始
25	木	1 2 3	
26	金	1 2 3	
27	土	1 2 3	歯科 I OC
28	日	1 2 3	
29	月	1 2 3	
30	火	1 2 3	
31	水	1 2 3	

歯科衛生士教育課程（3年制・I部）

2021年4月～

分野	教育内容	科目	必修・選択	方法	単位	時間	1年次		2年次		3年次	
							単位	時間	単位	時間	単位	時間
基礎分野	科学的思考の基礎	生物学	必修	講義	1	16	1	16				
		化学	必修	講義	1	16	1	16				
		情報科学Ⅰ	必修	講義	1	16	1	16				
		情報科学Ⅱ	必修	演習	1	16			1	16		
	人間と生活	心理学	必修	講義	1	16	1	16				
		英語	必修	講義	2	30	2	30				
		ウェルネス概論	必修	講義	1	16	1	16				
		予防医学	必修	講義	1	16			1	16		
		総合研究Ⅰ	必修	演習	1	16	1	16				
		総合研究Ⅱ	必修	演習	1	16			1	16		
	規則10単位	小計			11	174	8	126	3	48	0	0
専門基礎分野	人体(歯・口腔を除く。)の構造と機能	解剖学	必修	講義	2	30	2	30				
		生理学	必修	講義	2	30	2	30				
	歯・口腔の構造と機能	組織・発生学	必修	講義	1	16	1	16				
		生化学	必修	講義	1	16	1	16				
		口腔解剖学	必修	講義	2	30	2	30				
		歯牙解剖学	必修	講義	1	16	1	16				
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	必修	講義	2	30	2	30				
		微生物学	必修	講義	2	30	2	30				
		薬理学	必修	講義	2	30	2	30				
		栄養学	必修	講義	1	16	1	16				
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	口腔衛生学	必修	講義	2	30	2	30				
		衛生・公衆衛生学	必修	講義	2	30	2	30				
		衛生行政	必修	講義	1	16			1	16		
		社会福祉	必修	講義	1	16			1	16		
		衛生統計学	必修	講義	1	16			1	16		
	規則22単位	小計			23	352	20	304	3	48	0	0
専門分野	歯科衛生士概論	歯科衛生士概論Ⅰ	必修	講義	1	16	1	16				
		歯科衛生士概論Ⅱ	必修	講義	1	16			1	16		
	臨床歯科医学	歯科臨床概論	必修	講義	1	16	1	16				
		保存修復学	必修	講義	1	16	1	16				
		歯内療法学	必修	講義	1	16	1	16				
		歯周治療学	必修	講義	1	16	1	16				
		歯科補綴学	必修	講義	1	16	1	16				
		口腔外科学	必修	講義	1	16	1	16				
		歯科矯正学	必修	講義	1	16			1	16		
		小児歯科学	必修	講義	1	16			1	16		
		歯科放射線学	必修	講義	1	16			1	16		
		障害者歯科学	必修	講義	1	16			1	16		
		高齢者歯科学	必修	講義	1	16			1	16		
	歯科予防処置論	予防的歯石除去法Ⅰ	必修	実習	2	60	2	60				
		予防的歯石除去法Ⅱ	必修	実習	2	60			2	60		
		予防的歯石除去法Ⅲ	必修	実習	2	60			2	60		
		予防的歯石除去法Ⅳ	必修	実習	1	30					1	30
		う蝕予防処置法Ⅰ	必修	実習	1	30	1	30				
		う蝕予防処置法Ⅱ	必修	実習	1	30			1	30		
	歯科保健指導論	歯科保健指導Ⅰ	必修	実習	1	30	1	30				
		歯科保健指導Ⅱ	必修	実習	2	60			2	60		
		歯科保健指導Ⅲ	必修	実習	2	60					2	60
		歯科保健指導Ⅳ	必修	実習	1	30					1	30
	歯科診療補助論	栄養指導	必修	講義	1	16	1	16				
		歯科診療補助実習Ⅰ	必修	実習	1	30	1	30				
		歯科診療補助実習Ⅱ	必修	実習	2	60	2	60				
		歯科診療補助実習Ⅲ	必修	実習	2	60			2	60		
		歯科診療補助実習Ⅳ	必修	実習	2	60			2	60		
		歯科材料学	必修	講義	1	16	1	16				
		臨床検査学	必修	講義	1	16			1	16		
		保険事務	必修	講義	1	16			1	16		
		インプラント・審美歯科学	必修	講義	1	16			1	16		
		介護・応急処置	必修	講義	1	16			1	16		
	臨地実習(臨床実習を含む。)	臨地・臨床実習演習	必修	実習	1	45			1	45		
		臨地・臨床実習Ⅰ	必修	実習	6	270			6	270		
		臨地・臨床実習Ⅱ	必修	実習	14	630					14	630
	規則54単位	小計			62	1909	16	354	28	805	18	750
選択必修分野	必修 基礎講座	文章表現論	必修	講義	1	16	1	16				
		礼儀作法	必修	講義	1	16			1	16		
		歯科医学総論	必修	講義	5	75					5	75
		小計			7	107	1	16	1	16	5	75
	合計				103	2542	45	800	35	917	23	825
	選択 教養講座	パソコン	選択	実習	1	16			1	16		
		フラワーアレンジ	選択	実習								
		書道・ペン字	選択	実習								
	規則7単位	小計			1	16	0	0	1	16	0	0
	総合計				104	2558	45	800	36	933	23	825

2026年度 前期時間割

【 第1学年 】

2026年度入学

42期生

時限	1		2		3		4
	9:00~10:30		10:40~12:10		12:30~14:00		14:10~15:40
月	<u>解剖学</u> 角 (遠水)		<u>ウェルネス</u> <u>概論</u> 深山	<u>歯科材料学</u> 服部	<u>生理学</u> 澁川 (遠水)		予備
火	<u>口腔解剖学</u> 清水 (遠水)		<u>心理学</u> 穴沢	<u>化学</u> 横瀬	<u>心理学</u> 穴沢	<u>歯科診療補助</u> <u>実習Ⅰ</u> 細矢	予備
水	<u>歯科保健指導Ⅰ</u> 重野 荻野 (大島)		<u>薬理学</u> 田村		<u>歯科診療補助</u> <u>実習Ⅰ</u> 細矢	<u>総合研究Ⅰ</u> 細矢	予備
木	<u>歯科衛生士</u> <u>概論</u> 玉置	<u>生化学</u> 唐木田 (遠水)	<u>臨床概論</u> 上條	<u>生化学</u> 唐木田	<u>生物学</u> 横瀬	<u>栄養学</u> 高野 (大島)	予備
金	<u>微生物学</u> 大島 (濱田)		<u>口腔衛生学</u> 植野 (遠水)		<u>衛生・公衆衛生学</u> 川戸 (遠水)		予備
土	予備		予備		予備		予備

2026年度 後期時間割

【 第1学年 】

2025年度入学

41期生

時限	1		2		3		4
	9:00~10:30		10:40~12:10		12:30~14:00		14:10~15:40
月	<u>歯内療法学</u> 角 (平嶋)	<u>予防的 歯石除去法Ⅰ</u> 遠水	<u>文章表現</u> 石附	<u>予防的 歯石除去法Ⅰ</u> 遠水	<u>う蝕 予防処置法Ⅰ</u> 斎藤	予備	
火	<u>予防的 歯石除去法Ⅰ</u> 遠水	<u>口腔外科学</u> 山根 (細矢)	<u>予防的 歯石除去法Ⅰ</u> 遠水	<u>口腔外科学</u> 山根 (細矢)	<u>栄養指導</u> 高野 (大島)	予備	
水	<u>歯牙解剖</u> 清水 (遠水)	<u>組織発生学</u> 清水 (遠水)	<u>歯科診療補助実習Ⅱ</u> 細矢		<u>歯科診療補助実習Ⅱ</u> 細矢		予備
木	<u>歯科補綴学</u> 米山 (平嶋)		<u>保存修復学</u> 陸田 (平嶋)	<u>情報科学Ⅰ</u> 伊藤	<u>歯周治療学</u> 徳永 (平嶋)	<u>情報科学Ⅰ</u> 伊藤	予備
金	<u>英語</u> 植野		<u>口腔衛生学</u> 植野 (斎藤)		<u>病理学</u> 牛尾 (遠水)		予備
土	予備		予備		予備		予備

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	生物学	担当教員	横瀬勝美	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【一般目標（GIO）】

衛生士が知る基礎的生物学として、生命現象を細胞レベルから学び習得する。
またはヒトの体の構造を学び代謝を知ることにより生命が維持されていることを習得する。

【到達目標（SBO）】

- 1) 生命について説明できる。
- 2) 細胞内小器官を知り、概説できる。
- 3) 単細胞生物、多細胞生物を知り、組織や器官などについて概説できる。
- 4) 生命の連続を知り、遺伝について概説できる。
- 5) 刺激反応について概説できる。
- 6) 内部環境の保持について概説できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	生命とは何か	横瀬 勝美
2	生物は細胞からできている	横瀬 勝美
3	細胞内の細胞小器官の働き	横瀬 勝美
4	細胞の一生と個体の成り立ち	横瀬 勝美
5	生命の連続	横瀬 勝美
6	遺伝と遺伝子	横瀬 勝美
7	刺激の需要と反応	横瀬 勝美
8	内部環境について	横瀬 勝美
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	配布プリント
成績評価法	定期試験、ポストテスト、レポートなどを総合的に評価する
備考・実務経験等	実務経験なし

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	化学	担当教員	横瀬勝美	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

身近な生活の中にある物質や起きている現象を化学的にとらえて考える力を養うと共に衛生士として必要な化学的知識を学ぶ。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 元素の結合を学び、放射線と元素の関係が説明できる。
- 2) 試薬・薬品の濃度を知り、調整することができる。
- 3) う蝕と酸・塩基を学び、う蝕予防について説明できる。
- 4) 人体を構成する元素を知り、糖質・タンパク質・脂質の構造と働きを説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	1. 物質を構成する元素 2. 周期表と化学結合 3. 放射線と元素	横瀬勝美
2	4. 物質の状態（気体・液体・個体・溶液）	横瀬勝美
3	5. 試薬溶液濃度	横瀬勝美
4	6. う蝕と酸化反応（酸・塩基）	横瀬勝美
5	7. 歯科修復物の金属 8. 歯科材料と元素	横瀬勝美
6	9. 食品とエネルギー 10. 人体を構成する元素	横瀬勝美
7	11. 糖質の構造と働き 12. タンパク質の構造と働き	横瀬勝美
8	13. 脂質の構造と働き	横瀬勝美
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	配布プリント
成績評価法	定期試験、ポストテスト、レポートなどを総合して評価する
備考・実務経験等	実務経験なし

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	心理学	担当教員	穴沢 有沙	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

心理学と聞くと、かたく感じてしまうかもしれませんが、実は日々の家族や友達、そして歯科診療においてとても大切な概念です。知らずにコミュニケーションを取ることもできますが、より深く本質的なコミュニケーションを手に入れるために、学術的な心理学を学び、自分も相手も心地よい関係を構築できるようになりましょう。

【 到達目標（S B O） 】

各章の「こころ」を学び、歯科臨床に活かすための方法を習得します。
 そのために、「知る」「わかる」「理解する」、そして「できるようになる」ことを目標とします。
 また、学んだ内容をクラスメイトや家族と実践し、何がうまくいき、何がどのような理由でうまくいかなかったのかを振り返ります。その上で、意見交換を通じて理解を深めていきます。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	心理学概論：心理学を学ぶ意味、1章 見る・聞く・感じるこころ	穴沢 有沙
2	2章 学ぶ・覚えるこころ、3章 やる気の心理、4章 喜怒哀楽のこころ	穴沢 有沙
3	5章 その人らしさの心理—パーソナリティ、6章 かしこさの心理	穴沢 有沙
4	7章 考えるこころ、8章 発達するこころ(1)	穴沢 有沙
5	9章 発達するこころ(2)、10章 人と関わる心理	穴沢 有沙
6	11章 人と集うこころ、12章 健康なこころ	穴沢 有沙
7	13章 カウンセリングのこころ、14章 思いを伝え合うこころ	穴沢 有沙
8	心理学の活用と歯科衛生士としての在り方	穴沢 有沙
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	プリント等
成績評価法	小テスト 定期試験
備考・実務経験等	歯科医院にて歯科衛生士として勤務経験あり

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☐ 専門分野		☐ 選択必修分野	
授業科目名	ウェルネス概論		担当教員	深山 治久		授業形態	☒ 講義 ☐ 実習	
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期		学 年	1 学年		単位数	1	

【 一般目標（GIO） 】		
ウェルネスの概念を把握し、歯科衛生士の医療での役割を理解する。		
【 到達目標（SBO） 】		
歯科を訪れる患者を安全に診療するために全身状態を把握し、歯科衛生士として出来ることを習得する。		
【 授業内容 】		
回	授 業 内 容	担当教員
1	糖尿病などの内分泌疾患	深山 治久
2	高血圧とその影響	深山 治久
3	狭心症，心筋梗塞などの循環器疾患	深山 治久
4	気管支喘息などの呼吸器疾患	深山 治久
5	慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの高齢者に多い疾患	深山 治久
6	脳梗塞，脳出血などの脳血管疾患	深山 治久
7	認知症などの神経系疾患	深山 治久
8	がんなどの悪性新生物	深山 治久
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	配布プリント
成績評価法	態度，出席などで総合的に評価する
備考・実務経験等	歯科大学附属病院・歯科保健医療センターにて歯科医師として勤務経験あり

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	総合研究Ⅰ		担当教員 細矢 尚子	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年 1 学年	単位数 1

【一般目標（GIO）】

本学において、学生生活の目的や目標を明確にし、計画的な日々を送ることができるようにすること。

【到達目標（SBO）】

- ・本学における学生生活の目的を述べることができる
- ・本学における学生生活の目標を述べることができる
- ・他学年との交流を通して、歯科衛生士について理解を深めることができる

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	オリエンテーションⅠ	細矢 尚子
2	オリエンテーションⅡ	細矢 尚子
3	オリエンテーションⅢ	細矢 尚子
4	墨田区歯科健康診査	細矢 尚子
5	墨田区歯科健康診査	細矢 尚子
6	3年生 衛生教育見学	細矢 尚子
7	2年生 合同実習（う蝕予防処置法）	細矢 尚子
8	2年生 合同実習（う蝕予防処置法）	細矢 尚子
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	なし
成績評価法	毎授業時間終了後に提出されるレポートや課題の内容と出席状況、受講態度を考慮して成績を評価する
備考・実務経験等	歯科医院にて歯科衛生士として勤務経験あり

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	生化学		担当教員	唐木田 丈夫
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年	1 学年
			単位数	1

【 一般目標（G I O） 】

人体の構成成分および生体の恒常性維持について生化学的知識を習得する。

【 到達目標（S B O） 】

1) 細胞の基本構造と水溶液の性質を説明できる。2) 糖質、脂質、タンパク質の構造と性質を説明できる。3) 核酸の構造と遺伝子について説明できる。4) 栄養素の代謝によるエネルギー産生を説明できる。5) 歯と歯周組織の成分について説明できる。6) 血清カルシウム調節について説明できる。7) 唾液の成分と働きについて説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	細胞の構造と生体の水	唐木田 丈夫
2	糖質、脂質、タンパク質の構造	唐木田 丈夫
3	核酸の構造と遺伝子	唐木田 丈夫
4	エネルギー代謝	唐木田 丈夫
5	細胞外マトリックスの種類と構造	唐木田 丈夫
6	硬組織と血清カルシウム調節	唐木田 丈夫
7	唾液とプラーク	唐木田 丈夫
8	まとめ	唐木田 丈夫
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	人体の構造と機能2「生化学・口腔生化学」、医歯薬出版（株）
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	勤務経験なし

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	解剖学		担当教員	角 祥太郎
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年	1 学年
			単位数	2

【 一般目標 (G I O) 】

解剖学は医学・歯学の基礎となる重要な学問である。

歯科衛生士として医療にたずさわる上で、人体を構成する諸器官の形態と構造、それらの働きを理解する事は必須である。

人体を構成する諸器官の形態や構造について学ぶ。

人体を総合的に理解するために形態や構造と機能との関連についても深く理解する。

【 到達目標 (S B O) 】

- 1) 全身の構造と機能を理解する。
- 2) 口腔の構造と機能を理解する。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	解剖学総論：解剖学を学ぶにあたって 身体各部の名称、主要な器官の名称、主要な器官の名称及び位置	角 祥太郎
2	骨格系 1：骨、軟骨、靱帯、関節、形状 (身体の支持、運動、内臓の保護、造血)	角 祥太郎
3	骨格学 2：頭・頭部の骨、体幹と体肢の筋の名称と分布	角 祥太郎
4	筋系 1：骨格筋・心筋・平滑筋 筋・腱・筋の収縮 (各部の運動、姿勢の保持、内臓の保護、熱の産生)	角 祥太郎
5	筋系 2：頭部・頭部の筋、体幹と体肢の筋の名称と分布	角 祥太郎
6	消化器系：消化管と腺の名称と分布 舌 (摂取した食物の分解・吸収、細胞のエネルギーを生産)	角 祥太郎
7	呼吸器系：気道系と肺の名称と分布 (酸素の供給と二酸化炭素の除去)	角 祥太郎
8	泌尿器系：腎臓と尿路系の名称と分布 (老廃物の排出と血液の水、電解質と酸塩基平衡の調節)	角 祥太郎
9	生殖器系：だんせい・女性生殖器の名称と分布 (子孫を生み出し種の保存を確保)	角 祥太郎
10	内分泌系：内分泌の名称と分布 ホルモン (身体の活動を調節)	角 祥太郎
11	心血管系 1：心臓、血管とリンパ系 (血液・リンパ液を運搬するポンプと管)	角 祥太郎
12	心血管系 2：心臓、血管、リンパ管の名称と分布 頭部・頸部の血管	角 祥太郎
13	神経系 1：脳・脊髄と神経 (感覚、高次精神機能、腺や筋の活動制御、恒常性の維持)	角 祥太郎
14	神経系 2：中枢神経と末梢神経の分布と名称 頭部の神経	角 祥太郎
15	感覚器系まとめ：感覚器 味覚、一般知覚	角 祥太郎

教科書・参考書	人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学 (医歯薬出版)、口腔顎顔面解剖ノート (学研書院) テキストおよびスライド投影
成績評価法	定期試験、小テスト、出席状況、提出物を総合的に評価
備考・実務経験等	歯科大学病院・歯科医院で勤務経験あり

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	生理・口腔生理学		担当教員 澁川 義幸 倉島 竜哉	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年 1 学年	単位数 2

【一般目標（GIO）】

各器官系の機能と細胞間情報伝達、細胞内情報伝達の基本的な機序を理解し、歯科臨床における患者の生理学的機能および、臨床問題となる生体恒常性の破綻（全身疾患と歯科臨床のかかわり）の背景を理解する。

【到達目標（SBO）】

体液、物質の運搬を説明できる。血液の機能、血漿、血液型を説明できる。体温の調節機構を説明できる。排泄機能を説明できる。内分泌系の機能を説明できる。消化管、運動と機能、消化液を説明できる。肺の機能、外呼吸と内呼吸を説明できる。循環機能を説明できる。末梢神経機能を説明できる。中枢神経機能を説明できる。口腔領域の感覚と運動、その調節を説明できる。味覚と唾液、味覚の発現を説明できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	体液、物質の運搬	澁川 義幸
2	血液の機能、血漿、血液型	倉島 竜哉
3	末梢神経機能	倉島 竜哉
4	末梢神経機能	倉島 竜哉
5	中枢神経機能	倉島 竜哉
6	体温の調節機構	倉島 竜哉
7	消化管、運動と機能、消化液	倉島 竜哉
8	排泄機能	倉島 竜哉
9	肺の機能、外呼吸と内呼吸	倉島 竜哉
10	循環機能	倉島 竜哉
11	内分泌系の機能	倉島 竜哉
12	口腔領域の感覚と運動、その調節	倉島 竜哉
13	口腔領域の感覚と運動、その調節	倉島 竜哉
14	味覚と唾液、味覚の発現	倉島 竜哉
15	味覚と唾液、味覚の発現	倉島 竜哉

教科書・参考書	最新歯科衛生士教本
成績評価法	定期試験による総括評価、レポート点を加味する。
備考・実務経験等	東京歯科大学生理学講座

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☒ 選択必修分野
授業科目名	口腔解剖学		担当教員	清水 宏祐
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年	1 学年
			単位数	2

【一般目標（GIO）】

歯科医療を学習する上で最も基本となる口腔内の構造を学習する。解剖学とは骨、筋からなる運動器学、血管やリンパなどからなる脈管学、運動や感覚などを支配する神経学など細分化されるが、最終的にはこれらを統合化して理解できるようになることを目標とする。歯科衛生士として必要となる口腔解剖学を学び、歯科臨床で役立てることが出来る知識を習得する。

【到達目標（SBO）】

- 1) 口腔および顎顔面部の体表解剖学を説明できる。
- 2) 口腔および顎顔面部を系統別（運動器学、脈管学、神経学、内臓学など）に説明することができる。
- 3) 軟組織系（舌、頬、唾液腺など）の構造や機能を説明できる。
- 4) 歯周組織および顎関節の構造を説明できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	口腔解剖学概論：解剖学用語や頭蓋骨の概要	清水 宏祐
2	骨学1：頭蓋骨を構成する骨名及び骨の連結様式	清水 宏祐
3	骨学2：頭蓋骨の構造物と神経と血管	清水 宏祐
4	骨学3：顎関節の構造	清水 宏祐
5	運動器学1：表情筋と咀嚼筋、舌筋	清水 宏祐
6	運動器学2：頸部の筋と嚥下に関わる筋	清水 宏祐
7	神経学1：脳神経概論	清水 宏祐
8	神経学2：三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経、舌下神経	清水 宏祐
9	神経学3：自律神経系と神経節	清水 宏祐
10	脈管学1：内頸動脈と外頸動脈	清水 宏祐
11	脈管学2：静脈とリンパ系	清水 宏祐
12	口腔軟組織：口蓋、舌	清水 宏祐
13	口腔軟組織：唾液腺	清水 宏祐
14	口腔解剖学実習1：顎顔面領域の体表解剖を観察する。	清水 宏祐
15	口腔解剖学実習2：口腔内の構造を観察する。	清水 宏祐

教科書・参考書	全国歯科衛生士教育協議会監修 最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理
成績評価法	定期試験と小試験等で評価する。
備考・実務経験等	歯科大学病院にて歯科医師として勤務

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	微生物学		担当教員	大島 朋子
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年	1 学年
			単位数	1

【 一般目標（G I O） 】

口腔の疾患のほとんどは微生物が原因もしくは引き金となって発症し、歯科衛生士の日常業務の中には、それら口腔疾患に関する予防措置や保健指導が含まれている。したがって微生物学は歯科衛生士にとって必要不可欠な学問である。特に、病原微生物や常在菌叢について、およびそれに対する生体防御反応としての免疫反応について熟知している必要がある。また、近年、社会的問題となっている耐性菌による院内感染、AIDS、ウイルス性肝炎、新型ウイルス感染症などに関しても、診療の場においての滅菌・消毒に携わる立場上、十分な微生物学的知識が求められる。これらの要求に応えられるよう、幅広い内容を習得することを目標とする

【 到達目標（S B O） 】

1) 微生物を定義し、分類できる。2) 微生物の性状を列挙し、概説できる。3) 滅菌・消毒を定義し、方法・適用を列挙できる。4) 感染症について概説し、その種類を列挙できる。5) 感染症の治療法である化学療法を説明し、その種類・適応を列挙できる。6) 微生物の病原因子を列挙できる。7) 免疫機構について概説できる。8) 免疫と疾患の関係を説明できる。9) 病原微生物の特徴と疾患を列挙できる。10) 口腔常在微生物叢およびプラークを説明できる。11) う蝕と微生物について説明できる。12) 歯周病と微生物について説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	微生物学入門、微生物の分類	大島 朋子
2	微生物の一般性状、観察方法	大島 朋子
3	滅菌と消毒	大島 朋子
4	化学療法	大島 朋子
5	感染症	大島 朋子
6	微生物の病原因子	大島 朋子
7	免疫学総論	大島 朋子
8	免疫学各論	大島 朋子
9	アレルギーと疾患	大島 朋子
10	病原微生物各論（グラム陽性細菌）	大島 朋子
11	病原微生物各論（グラム陰性細菌）	大島 朋子
12	病原微生物各論（ウイルス、真菌、その他）	大島 朋子
13	口腔環境と口腔常在微生物叢およびプラーク	大島 朋子
14	口腔感染症（う蝕）	大島 朋子
15	口腔感染症（歯周病）	大島 朋子

教科書・参考書	最新歯科衛生士教本「微生物学」（医歯薬出版）・プリント 歯科衛生士国家試験 ポイントチェック①（医歯薬出版）
成績評価法	定期試験・レポート
備考・実務経験等	鶴見大学歯学部口腔細菌学教室

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	薬理学	担当教員	田村幸彦	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

生体の生理学的機能を基盤として薬物の生体に対する作用を理解し、医療従事者として薬理学についての基礎知識を修得する。さらに医薬品の薬理作用や作用機序を理解して臨床で汎用される薬物を安全かつ効果的に活用するために必要な知識を修得する

【 到達目標（S B O） 】

1. 薬の作用機序、薬物動態、薬理作用に影響する因子、医薬品の剤形、保管方法および処方箋と薬事関連法規について説明できる。
2. 中枢神経系作用薬と末梢神経系作用薬の種類や特長とその薬理作用について概説できる。
3. 呼吸器系、循環器系作用薬およびホルモン、ビタミン剤の種類や特長と薬理作用について概説できる。
4. 血液系および抗炎症薬、病原微生物作用薬の種類や特長と薬理作用について概説できる。
5. 悪性腫瘍薬、免疫系作用薬、歯科薬剤、漢方薬の種類や特長と薬理作用について概説できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	薬理学総論 1（薬物の作用機序、薬物動態、薬物の適用方法）	田村幸彦
2	薬理学総論 2（薬理作用に影響する因子、治療係数）	田村幸彦
3	薬理学総論 3（医薬品開発、ジェネリック医薬品、OTC薬）	田村幸彦
4	薬理学総論 4（薬物の取り扱い、医薬品医療機器等法、日本薬局方）	田村幸彦
5	ビタミン剤・ホルモン剤、末梢神経系作用薬（自律神経系作用薬）	田村幸彦
6	中枢神経系作用薬（全身麻酔薬、抗不安薬）	田村幸彦
7	循環器系作用薬（強心薬、狭心症治療薬、不整脈治療薬、降圧薬）	田村幸彦
8	呼吸器系作用薬（気管支喘息治療薬、鎮咳薬）、消化器系作用薬	田村幸彦
9	止血薬（酸化セルロース等）、血液凝固阻止薬（ワルファリン等）	田村幸彦
10	免疫系作用薬（シグナル伝達阻害薬）	田村幸彦
11	悪性腫瘍治療薬（アルキル化薬、微小管阻害薬、分子標的薬など）	田村幸彦
12	抗炎症薬（NSAID, SAID, 解熱鎮痛薬、消炎酵素剤）	田村幸彦
13	局所麻酔薬、化学療法薬（抗感染症薬）	田村幸彦
14	消毒薬（フェノール類、酸化剤、ハロゲン化合物など）	田村幸彦
15	う蝕予防薬、歯内療法治療薬、歯周疾患治療薬、口腔粘膜治療薬、漢方薬	田村幸彦

教科書・参考書	教科書：最新 歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 「薬理学」 第2版 医歯薬出版 参考書：今日の治療薬 2026 南江堂
成績評価法	期末定期試験で総括的評価を行う。小テスト、出席状況、授業態度等を総括的評価に加味する。
備考・実務経験等	東京医科歯科大学歯学部薬理学講座

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	栄養学		担当教員	高野 由美子
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年	1 学年
			単位数	1

【 一般目標（G I O） 】

歯科衛生士が食生活指導を行う上で、必要な栄養学・食品学の基本的知識を習得する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 五大栄養素の種類とはたらきを説明できる。
- 2) 栄養・食生活の問題点を説明できる。
- 3) エネルギー産生栄養素の種類とはたらきを述べることができる。
- 4) 微量栄養素の種類とはたらき、欠乏症を述べることができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	栄養の基礎知識 栄養の概念	高野 由美子
2	栄養と食生活の意義、歯科衛生士が栄養学を学ぶ意義 栄養・食生活の現状と問題点	高野 由美子
3	栄養素の種類とはたらきⅠ 糖質、脂質 種類、はたらき、その他の栄養素との関係	高野 由美子
4	栄養素の種類とはたらきⅡ タンパク質、ビタミン 種類、はたらき、摂取タンパク質の量と質の評価、欠乏症	高野 由美子
5	栄養素の種類とはたらきⅢ ミネラル、食物繊維、水 種類、はたらき、欠乏症、生体内の水の分布、水の代謝	高野 由美子
6	栄養素の消化・吸収Ⅰ 消化の種類と過程、吸収のメカニズム	高野 由美子
7	栄養素の消化・吸収Ⅱ 栄養素別の消化・吸収 健康と栄養Ⅰ 食生活を取り巻く施策：食生活指針、健康日本21、食育	高野 由美子
8	栄養学まとめ	高野 由美子
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	人体の構造と機能3「栄養学」：医歯薬出版、 食品成分表：女子栄養大学出版部、配布プリント
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	歯科診療所にて歯科衛生士として勤務経験あり

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	口腔衛生学		担当教員	植野 正之
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年	1 学年
			単位数	2

【一般目標（GIO）】

人々の歯・口腔の健康に関するセルフケア能力を高めるために必要な教育的役割や、地域社会における保健対策への取り組みおよび関係諸機関等との調整のための能力を持った歯科衛生士となるために必要な基本的知識、技術、態度を習得する。

【到達目標（SBO）】

- 1) 歯周疾患の発病機序と予防法を説明できる。
- 2) 不正咬合およびその他の口腔疾患の予防を説明できる。
- 3) 人の健康行動を変容する健康教育および保健指導を説明できる。
- 4) 母子歯科保健を説明できる。
- 5) 学校歯科保健を説明できる。
- 6) 産業歯科保健を説明できる。
- 7) 成人・高齢者歯科保健を説明できる。
- 8) 災害時の歯科保健医療活動の重要性を説明できる。
- 9) 国際歯科保健活動における日本の役割を説明できる。
- 10) 精神保健における歯科の役割を説明できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	歯周疾患の発生要因	植野 正之
2	歯周疾患の発病機構	植野 正之
3	歯周疾患の予防	植野 正之
4	その他の口腔疾患の予防	植野 正之
5	不正咬合の予防	植野 正之
6	歯科保健指導・健康教育	植野 正之
7	歯・口腔の健康と予防	植野 正之
8	日本の健康づくり対策	植野 正之
9	地域歯科保健	植野 正之
10	母子歯科保健	植野 正之
11	学校歯科保健	植野 正之
12	産業歯科保健	植野 正之
13	成人・高齢者歯科保健	植野 正之
14	国際歯科保健	植野 正之
15	精神歯科保健	植野 正之

教科書・参考書	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 医歯薬出版 生活環境と健康/健康管理の進め方 日本成人病予防協会
成績評価法	定期試験にレポート点を加味する。
備考・実務経験等	歯科大学附属病院にて歯科医師として勤務

科目区分	☐ 基礎分野 ☐ 専門基礎分野 ☒ 専門分野 ☐ 選択必修分野					
授業科目名	歯科保健指導Ⅰ		担当教員	萩野美紀/重野悠	授業形態	☒ 講義 ☒ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期		学 年	1 学年	単位数	1

【一般目標（G I O）】 保健指導の基本を理解する。 各個人のライフスタイルに合わせた指導ができるようにする。		
【到達目標（S B O）】 1) 口腔内を観察することができる。 2) 各種清掃用具の特徴について理解する 3) 各種清掃法について理解し、手技を身につける。		
【授業内容】		
回	授 業 内 容	担当教員
1	保健指導の概要・考え方	萩野 美紀
2	保健指導の基礎知識(歯の構造他)	萩野 美紀
3	保健指導の基礎知識(う蝕と歯周病について)	萩野 美紀
4	保健指導の基礎知識復習、確認小テスト、歯式・方向用語について	萩野 美紀
5	口腔清掃指導用具の理解	萩野 美紀
6	補助的清掃用具の説明	萩野 美紀
7	補助的清掃用具の使用実習	萩野・重野
8	歯磨剤・染色の説明	萩野 美紀
9	確認小テスト、各種刷掃法の説明	萩野 美紀
10	各種刷掃法(毛先磨きの説明・実習)	萩野・重野
11	各種刷掃法(脇腹磨きの説明・実習)	萩野・重野
12	オレリーの説明・練習問題	萩野 美紀
13	症例写真から見る保健指導検討会	萩野 美紀
14	音波ブラシ・ジェット水流洗口器の説明・実習	萩野・重野
15	まとめ	萩野 美紀
教科書・参考書	歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）	
成績評価法	定期試験・小テスト・出席、授業態度	
備考・実務経験等	歯科医院にて歯科衛生士として勤務経験あり	

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	歯科診療補助実習Ⅰ		担当教員 細矢・大島	授業形態 ☒ 講義 ☒ 実習
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年 1 学年	単位数 1

【一般目標（GIO）】

【講義】

歯科用器機や様々な薬品・製品の材料を安全且つその器機・材料の性能を十分発揮できるよう特徴・扱い方を習得する。

【実習】

歯科診療を行うための基礎を確実なものとするために、知識を活かした専門技術の習得に努める。

【到達目標（SBO）】

- ①歯科診療補助の概説できる。
- ②歯科用器機の構造を理解し、正しく取り扱うことができる。
- ③滅菌・消毒の定義を理解し、使用器機・薬品の正しい知識を説明できる。
- ④歯科治療に用いる材料とその用途について説明できる。
- ⑤印象材が練和できる。
- ⑥模型材の特徴を考察することができる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	オリエンテーション (講義)	細矢 尚子
2	滅菌・消毒 (講義)	大島 幸子
3	一般診療器械 (講義)	細矢 尚子
4	印象材Ⅰ (講義)	細矢 尚子
5	衛生材料・手指消毒Ⅰ (説明・実習)	大島 幸子
6	模型材Ⅰ (講義・実習)	大島 幸子
7	印象材Ⅱ (講義・実習)	細矢 尚子
8	合着材Ⅰ (講義)	大島 幸子
9	合着材Ⅱ (実習)	大島 幸子
10	印象材Ⅲ (実習)	細矢 尚子
11	模型材Ⅱ (実習)	大島 幸子
12	模型材Ⅲ (実習)	大島 幸子
13	復習	細矢・大島
14	合着材Ⅲ (講義)	大島 幸子
15	合着材Ⅳ (実習)	大島 幸子

教科書・参考書	全国歯科衛生士学術協議会編集・監修・医歯薬出版/同歯科機器/同歯科材料/歯科診療補助論
成績評価法	定期試験・実技試験・口頭試問・レポート・作品提出
備考・実務経験等	歯科医院にて歯科衛生士として勤務経験あり ※オフィスアワー 授業前後教室やいつでも9階教務課にて質問を受けます。

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	歯科材料学		担当教員 服部雅之、笠原正彰	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【一般目標（GIO）】

【講義】

歯科疾患を予防または治療する過程では、種々の道具・器材を使用し、金属、セラミックス、レジンなど多種類の材料を駆使して歯の欠損を補い、口腔機能の回復を図る。その治療に用いられる種々の歯科材料は、口腔内で短時間に使用するものから、口腔内で長期に機能を維持するものまである。歯科材料学では、歯科衛生士として歯科予防処置や歯科診療の補助を行う上で必要な歯科材料の基礎的知識を身につけ、その材料が最も有効に利用でき、正しい選択と取り扱い方法を修得することを目標とする。

【到達目標（SBO）】

1) 一連の歯科診療補助で扱う歯科材料の種類と用途を説明する。2) 歯科材料と生体材料の機械的、物理的、化学的及び生物学的所要性質を説明する。3) 印象材の種類と所要性質、用途を説明する。4) 模型材の種類と所要性質、用途を説明する。5) ワックスの種類と用途を説明する。6) 歯冠修復材の種類と成分及び特性を説明する。7) 歯科インプラント材料の種類と構造を説明する。8) 歯科用レジン、成形修復材、予防填塞材の種類と用途、使用方法を説明する。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	歯科材料学概論／修復物・補綴装置の製作過程／歯科材料の科学	服部 雅之
2	印象材Ⅰ	笠原 正彰
3	印象材Ⅱ／模型材／ワックス	笠原 正彰
4	歯冠修復材（金属）／インプラント材料	笠原 正彰
5	歯冠修復材（セラミックス、CAD/CAM）	笠原 正彰
6	義歯用材料（床用アクリルレジン）	笠原 正彰
7	成形修復材／予防填塞材	笠原 正彰
8	合着・接着用材料	笠原 正彰
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	最新歯科衛生士教本 歯科材料（医歯薬出版）
成績評価法	定期試験：講義内容の理解度を多肢選択、真偽選択、空欄補充などの記述試験で評価する。
備考・実務経験等	歯科大学病院にて歯科医師として勤務

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☒ 選択必修分野
授業科目名	文章表現論	担当教員	石附鈴之介	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

- 1) それなりの長さを持った説明的文章を書くことに慣れる。
- 2) 誰が読んでも理解できる文章を書けるようになる。
- 3) ある事象や事柄を正確に文章化できるようになる。
- 4) 他者の書いた文章に質問できるようになる。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 文章表現の基本を理解する。
- 2) 自分の考えを伝えることができる。
- 3) レポートを作成できる。
- 4) 文章の見直し、意見の交換ができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ガイダンス レポートで必ず守らなければならないこと	石附鈴之介
2	質問の練習	石附鈴之介
3	事実・推測・意見を区別する	石附鈴之介
4	接続関係を学ぶ	石附鈴之介
5	文章の幹を捉える	石附鈴之介
6	主張の根拠を考える／反論の練習	石附鈴之介
7	レポートの作成	石附鈴之介
8	レポートのフィードバック：お互いに感想を述べ、見直し、改善する	石附鈴之介
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	参考書：野矢茂樹『大人のための国語ゼミ』筑摩書房 参考書：木下是雄『理科系の作文技術』中公新書 その他、授業内配布資料
成績評価法	授業内評価
備考・実務経験等	実務経験なし

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☐ 専門基礎分野 ☒ 専門分野 ☐ 選択必修分野
授業科目名	歯科衛生士概論Ⅰ 担当教員 玉置まゆ 授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期 学 年 1 学年 単位数 1

【一般目標（GIO）】

専門的な知識の理解を深めると共に歯科医療と歯科保健における歯科衛生士の役割について確認する。
 歯科衛生士法に基づく3つの業務（歯科予防処置・歯科診療補助・歯科保健指導）それぞれの重要性和社会変化に対応できる専門家としての意識を持つ。

【到達目標（SBO）】

- 履修する講義・実習の重要性を常に意識する。
- 医療に携わるための学習であることを理解し学びを深める。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	オリエンテーションと理想の歯科衛生士	玉置まゆ
2	歯科衛生士とは 歯科衛生士の役割と専門性	玉置まゆ
3	歯、口腔の解剖と機能 基本構造、咀嚼嚥下発音機能、唾液の働き	玉置まゆ
4	口腔の健康と全身疾患との関係 う蝕と歯周病のメカニズム、生活習慣病と歯周病	玉置まゆ
5	歯科予防処置の基本 プラークコントロール、フッ化物応用やシーラント等予防的介入	玉置まゆ
6	歯科保健指導の方法論 ライフステージ別の患者とのコミュニケーション	玉置まゆ
7	歯科診療補助の基礎 診療アシスタントの役割、感染管理	玉置まゆ
8	前期まとめ 小テスト	玉置まゆ

教科書・参考書	歯科衛生士概論（医歯薬出版）
成績評価法	定期試験、レポート、授業態度により総合的に評価する
備考・実務経験等	歯科医院にて歯科衛生士として勤務経験あり

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	歯科臨床概論		担当教員 平野・宮村・小幡・ 天川・上條	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【一般目標（GIO）】

国民の歯科医療に対するニーズが高まり、超高齢化社会へと向かう今、歯科医療現場における要望はますます多様化、高度化し、それに伴って歯科医療は、質的向上、ならびに医療連携等における幅広い対応を求められるようになってきている。そのため、歯科衛生士の役割は近年ますます重要性を帯びてきているが、ここでは歯科臨床の現場と机上学習とのギャップを極力小さくし、将来的に歯科衛生士としての誇りとやりがいを持って、臨床現場で活躍できる医療人となるための礎を築くことを目標とする。

【到達目標（SBO）】

歯科医療全般に関して、今後3年間で学習する内容の概略を、大まかに理解し、これに続く各論の学習への導入を容易にする。そして、歯科医学を体系的に学ぶ初歩段階に到達する。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	I 編 1 章 2 章 歯科診療 歯科診療所	上條 達央
2	I 編 3 章 歯科診療所における業務 8. 障害者歯科・高齢者歯科 ①障害者 ②摂食嚥下障害への対応 ⑤歯科訪問診療	宮村 壽一
3	II 編 2 章 2. 小児歯科 7. 歯科補綴	天川 智央
4	II 編 2 章 6. 歯周治療	天川 智央
5	II 編 1 章 ライフステージと歯科診療 2 章 1. 歯科診療の流れ 診査・検査・前処置 画像検査	小幡 宏一
6	II 編 2 章 5. 歯科保存治療の概要 8. 障害者歯科・高齢者歯科 ①高齢者 ③全身疾患への対応 ④周術期の対応	小幡 宏一
7	II 編 2 章 4. 口腔外科	平野 泰正
8	II 編 2 章 3. 歯科矯正	平野 泰正
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	最新歯科衛生士教本（歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法），プリント
成績評価法	定期試験，レポート等
備考・実務経験等	歯科医院にて歯科医師として勤務

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	予防的歯石除去法Ⅰ		担当教員	石川 麻衣
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年	1 学年
			単位数	2

【一般目標（GIO）】

歯科予防処置における歯科衛生士の役割を理解し、口腔衛生管理を目的とした予防的歯石除去を安全・適確に行うための知識・技術・態度を習得する。

【到達目標（SBO）】

- 1) 歯科予防処置の概念と内容を説明できる。
- 2) 歯科予防処置の法的位置づけを説明できる。
- 3) 歯科予防処置の範囲と業務を説明できる。
- 4) スケーラーの種類と使用目的を説明できる。
- 5) シックル型スケーラーを操作できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	予防的歯石除去の基礎知識	石川 麻衣
2	シックル型スケーラーの基礎知識 ①	石川 麻衣
3	シックル型スケーラーの基礎知識 ②	石川 麻衣
4	シックル型スケーラー操作の4原則 ①	石川 麻衣
5	シックル型スケーラー操作の4原則 ②	石川 麻衣
6	シックル型スケーラー操作の4原則 ③	石川 麻衣
7	歯式と方向用語	石川 麻衣
8	運動方法 実技試験 ①	石川 麻衣
9	運動方法 実技試験 ②	石川 麻衣
10	シックル型スケーラー操作 1・2群 説明・机上訓練	石川 麻衣
11	シックル型スケーラー操作 1群 マネキン操作訓練 ①	石川 麻衣
12	シックル型スケーラー操作 1群 マネキン操作訓練 ②	石川 麻衣
13	シックル型スケーラー操作 2群 マネキン操作訓練 ①	石川 麻衣
14	シックル型スケーラー操作 2群 マネキン操作訓練 ②	石川 麻衣
15	シックル型スケーラー操作 3・4群 説明・机上訓練 ①	石川 麻衣

16	シックル型スケーラー操作 3・4群 マネキン操作訓練 ①	石川 麻衣
17	シックル型スケーラー操作 3・4群 マネキン操作訓練 ②	石川 麻衣
18	シックル型スケーラー操作 5・6群 説明・机上訓練	石川 麻衣
19	シックル型スケーラー操作 5・6群 マネキン操作訓練 ①	石川 麻衣
20	シックル型スケーラー操作 5・6群 マネキン操作訓練 ②	石川 麻衣
21	シックル型スケーラー操作 7・8群 説明・机上訓練	石川 麻衣
22	シックル型スケーラー操作 7・8群 マネキン操作訓練 ①	石川 麻衣
23	シックル型スケーラー操作 7・8群 マネキン操作訓練 ②	石川 麻衣
24	シックル型スケーラー操作 9・10・11・12群 説明・机上訓練	石川 麻衣
25	シックル型スケーラー操作 9・10群 マネキン操作訓練 ①	石川 麻衣
26	シックル型スケーラー操作 9・10群 マネキン操作訓練 ②	石川 麻衣
27	シックル型スケーラー操作 11・12群 マネキン操作訓練 ①	石川 麻衣
28	シックル型スケーラー操作 11・12群 マネキン操作訓練 ②	石川 麻衣
29	シックル型スケーラー操作 実技試験 ①	石川 麻衣
30	シックル型スケーラー操作 実技試験 ②	石川 麻衣

教科書・参考書	全国歯科衛生士教育協議会監修：歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）
成績評価法	出席状態、授業・実習態度、提出物、定期試験
備考・実務経験等	歯科診療所にて歯科衛生士としての実務経験

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☐ 専門分野		☐ 選択必修分野	
授業科目名	情報科学 I		担当教員	伊藤淳二		授業形態	☒ 講義	☒ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期		学 年	1 学年		単位数	1	

【 一般目標 (G I O) 】

- ・パソコンの基本的アプリケーション（ワープロ、表計算、プレゼン等）の操作法を理解し、活用法を習得する
- ・Microsoft officeに相当するOpen Officeの概要を理解する。
- ・今後、実務で必要となる資料の作成方法、パソコンを用いた発表技術の基礎を身につける。
- ・重要な社会問題でもある情報モラルや情報セキュリティにも触れ、社会で必要な情報リテラシーの知識と技能を養う。

【 到達目標 (S B O) 】

- 1) 基本的アプリケーションの操作ができる。
- 2) ブラインドタッチができるようになる。
- 3) Open Officeの概要を理解し、各アプリケーションの活用ができる。
- 4) プレゼンテーションについて概説でき、効果的なスライドを作成することができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	パソコンの基本操作	伊藤淳二
2	タイピング練習	伊藤淳二
3	Open Officeについて ワードプロソフト (Writer) 文章入力・表の挿入	伊藤淳二
4	ワードプロソフト (Writer) 実習 表計算ソフト (Calc) 関数・入力規則・グラフ作成	伊藤淳二
5	表計算ソフト (Calc) 実習	伊藤淳二
6	プレゼンテーションソフト (Impress) 文字加工、画像挿入、効果	伊藤淳二
7	プレゼンテーションとは 構成・作成方法 プレゼンスライドの構成立案・作成	伊藤淳二
8	プレゼンテーションの実施・反省・評価	伊藤淳二
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	特になし
成績評価法	出席状況、実技試験、授業・実習態度を総合評価
備考・実務経験等	歯歯科診療室にて歯科医師として勤務

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	英語		担当教員	植野正之
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年	1 学年
			単位数	2

【 一般目標（G I O） 】
 歯科医療の様々な場面での英語によるコミュニケーション能力を養うために必要な基本的英単語、英文法、英語 表現について習得し、歯科衛生士として日本語を母国語としない外国人の患者に対して、英語を用いて会話できる基礎的な能力を身につける。

- 【 到達目標（S B O） 】
- 1) 英語で挨拶や紹介、日常生活の出来事について話すことができる。
 - 2) 英語で患者の電話での予約の対応や緊急の予約の電話対応ができる。
 - 3) 英語で病歴の聴取や子どもへの歯みがき指導ができる。
 - 4) 英語で歯周病についての説明や歯のクリーニングの重要性について説明できる。
 - 5) 英語で術後の注意やフッ化物応用について説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	起床・身支度の表現・挨拶と紹介についての表現	植野 正之
2	朝食・出勤準備の表現・職業についての表現	植野 正之
3	駅での表現・電車での表現	植野 正之
4	仕事場での表現・通勤時の表現	植野 正之
5	食事についての表現・所持品についての表現	植野 正之
6	終業後の表現・場所を表す表現	植野 正之
7	自宅での表現・道を聞く表現	植野 正之
8	就寝についての表現・電話をかけるときの表現	植野 正之
9	患者の電話予約への対応	植野 正之
10	緊急時の電話予約への対応	植野 正之
11	子どもへの歯みがき指導	植野 正之
12	歯周病についての説明	植野 正之
13	歯のクリーニングの重要性	植野 正之
14	術後の注意	植野 正之
15	フッ化物の応用	植野 正之

教科書・参考書	なし
成績評価法	定期試験にレポート点を加味する。
備考・実務経験等	歯科大学附属病院に歯科医師として勤務

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☒ 選択必修分野
授業科目名	組織発生学		担当教員	清水 宏祐
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年	1 学年
			単位数	1

【 一般目標（G I O） 】

人体は細胞が集合して構成されていることを理解し、それらがどのように形づくり、その組織がどのように機能しているかを学習することで人体の構造を正しく理解する。口腔解剖学で学習したマクロ（肉眼的）の視点と組織学で学習するミクロ（顕微鏡的）の視点を統合して把握できることを目標とする。

また、生殖器など男女の性差についても学び、受精から人体の発生について理解を深める。顎顔面の発生と歯牙および歯周組織の発生を学習し、歯科疾患との関連性を理解する。

【 到達目標（S B O） 】

1. 細胞と組織の構造と機能を理解し説明できる。
2. 組織学的分類について理解し、それぞれにどのような構造的違いがあるか説明できる。
3. 人体の発生について受精卵から発生過程を説明できる。
4. 歯の組織学的構造を理解し、成長線や構造物について説明できる。
5. 歯周組織の組織学的構造を理解し説明できる。
6. 歯の発生について理解し、説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	細胞と組織	清水 宏祐
2	組織学概論 1：上皮組織、支持組織	清水 宏祐
3	組織学概論 2：筋組織、神経組織	清水 宏祐
4	歯牙組織学：エナメル質、象牙質、歯髄	清水 宏祐
5	歯周組織学：セメント質、歯根膜、歯槽骨、歯肉	清水 宏祐
6	人体発生学：生殖器、受精と発生、胚葉	清水 宏祐
7	顎顔面発生学：鰓弓と突起、口蓋の形成	清水 宏祐
8	歯牙・歯周組織発生学	清水 宏祐
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	全国歯科衛生士教育協議会監修 最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理
成績評価法	定期試験と小試験等で評価する。
備考・実務経験等	大学附属病院にて歯科医師として勤務

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☒ 選択必修分野
授業科目名	歯牙解剖学		担当教員	清水 宏祐
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年	1 学年
			単位数	1

【 一般目標（G I O） 】
歯科衛生士として歯科診療に携わるために必要となる乳歯や永久歯の形態や歯列について理解する。歯の萌出時期や形態異常、歯列不正などについても学習する。また、歯髄や歯周組織との関係についても学び、口腔解剖学を含めて理解を深める。
【 到達目標（S B O） 】
1. 永久歯の形態学的特徴や根管数などの特徴を理解し説明できる。
2. 歯の脱落・萌出の時期や順番を理解し説明できる。
3. 歯牙の形態異常とその発生部位について理解し説明できる。
4. 咬合関係や歯列について理解し、正常と不正が説明できる。
5. 歯型彫刻実習を通じて歯の形態を体感し、歯科臨床業務へ活用できる。
【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	歯牙解剖学概論：歯の種類、歯種と歯式、歯の鑑別	清水 宏祐
2	永久歯の解剖 1：中切歯、側切歯、犬歯	清水 宏祐
3	永久歯の解剖 2：小臼歯、大臼歯	清水 宏祐
4	乳歯の解剖	清水 宏祐
5	歯の形態異常	清水 宏祐
6	歯列と咬合	清水 宏祐
7	歯型彫刻実習 1	清水 宏祐
8	歯型彫刻実習 2	清水 宏祐
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	全国歯科衛生士教育協議会監修 最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理
成績評価法	定期試験と実習評価等で評価する。
備考・実務経験等	大学付属歯科病院に歯科医師として勤務

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	病理学		担当教員	牛尾 綾
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年	1 学年
			単位数	2

【 一般目標（G I O） 】

歯科衛生士の知識として必要な各種疾患の病態に関して病因と病理学的変化に基づいて理解する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 基本的な医学用語を説明できる。
- 2) 主要な疾患の病因と病理学的変化を概説できる。
- 3) 顎顔面・口腔領域の疾患の病因と症状及び病理組織学的変化を説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	病理学序論、病因論	牛尾 綾
2	遺伝性疾患と奇形	牛尾 綾
3	循環障害	牛尾 綾
4	代謝障害と退行性病変	牛尾 綾
5	増殖と修復	牛尾 綾
6	炎症	牛尾 綾
7	免疫応答異常	牛尾 綾
8	腫瘍	牛尾 綾
9	歯の発育異常、歯の損傷と着色・付着物	牛尾 綾
10	う蝕	牛尾 綾
11	象牙質・歯髄複合体の病態	牛尾 綾
12	歯周組織の病態	牛尾 綾
13	口腔粘膜の病変	牛尾 綾
14	口腔領域の嚢胞と腫瘍	牛尾 綾
15	顎骨の病変、唾液腺の病変、口腔領域の奇形、口腔組織の加齢変化	牛尾 綾

教科書・参考書	最新歯科衛生士教本 病理学・口腔病理学 医歯薬出版
成績評価法	定期試験、出席、必要に応じてレポート点を加味する。
備考・実務経験等	歯科クリニックで歯科医師として勤務経験あり

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	口腔衛生学		担当教員	植野 正之
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年	1 学年
			単位数	2

【 一般目標（G I O） 】

人々の歯・口腔の健康に関するセルフケア能力を高めるために必要な教育的役割や、地域社会における保健対策への取り組みおよび関係諸機関等との調整のための能力を持った歯科衛生士となるために必要な基本的知識、技術、態度を習得する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 健康、疾病、障害の概念を説明できる。
- 2) 疾病の自然史と第一次、第二次、第三次予防を説明できる。
- 3) 歯・口腔の正常像および異常を説明できる。
- 4) 歯・口腔の発育および機能を説明できる。
- 5) 口腔と全身の健康との関連を説明できる。
- 6) 歯・口腔の健康を保持・増進する方法を説明できる。
- 7) 歯・口腔の付着物と沈着物を説明できる。
- 8) 口腔清掃および歯磨き類を説明できる。
- 9) う蝕の発病機序と予防法を説明できる。
- 10) フッ化物によるう蝕予防を説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	口腔衛生学の意義	植野 正之
2	歯・口腔の機能	植野 正之
3	歯・口腔の正常像	植野 正之
4	歯の形成・萌出・交換	植野 正之
5	全身と歯・口の発育	植野 正之
6	歯・口腔の異常	植野 正之
7	歯・口腔の不潔物	植野 正之
8	歯・口腔の清掃	植野 正之
9	歯磨き類	植野 正之
10	う蝕発病の仕組み	植野 正之
11	う蝕の予防法	植野 正之
12	フッ化物によるう蝕予防	植野 正之
13	フッ化物の毒性・代謝	植野 正之
14	フッ化物の応用	植野 正之
15	う蝕予防処置	植野 正之

教科書・参考書	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 医歯薬出版 生活環境と健康/健康管理の進め方 日本成人病予防協会
成績評価法	定期試験にレポート点を加味する。
備考・実務経験等	歯科大学附属病院に歯科医師として勤務

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	衛生・公衆衛生学		担当教員	川戸 貴行
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年	1 学年
			単位数	2

【 一般目標（G I O） 】
健康にかかわる生活環境と公衆衛生活動の基礎を学び、国民の健康の保持増進の担い手として社会に貢献するための基本的知識を習得する

【 到達目標（S B O） 】
疾病構造ならびに人口構造の変化と公衆衛生活動の変遷を関連付けて説明できる。
環境因子が健康に及ぼす影響を説明できる。
疫学の目的を理解し、疫学研究の種類を弁別できる。
地域保健の概念と我が国の保健行政について説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	衛生学総論	川戸 貴行
2	記述疫学	川戸 貴行
3	分析疫学、EBM	川戸 貴行
4	人口統計	川戸 貴行
5	感染症対策	川戸 貴行
6	食と健康	川戸 貴行
7	生活習慣病対策	川戸 貴行
8	地域保健総論・母子保健	川戸 貴行
9	学校保健	川戸 貴行
10	産業保健	川戸 貴行
11	成人・高齢者保健	川戸 貴行
12	介護保健、障害者保健	川戸 貴行
13	精神保健、国際保健、災害保健	川戸 貴行
14	環境問題、水と健康、廃棄物処理	川戸 貴行
15	温熱・空気環境と健康	川戸 貴行

教科書・参考書	口腔衛生学2026（一世出版）
成績評価法	定期試験を基本とし、授業時に行う口頭による試問を加味する
備考・実務経験等	実務経験なし

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	保存修復学		担当教員	陸田 明智
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年	1 学年
			単位数	1

【 一般目標（G I O）】

歯に生じる硬組織疾患の概要を理解するために、疾患の治療の進め方の基本を習得する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 歯の硬組織疾患の病因と病態を説明できる。
- 2) 歯の硬組織疾患の診査、診断および処置法を説明できる。
- 3) 修復に必要な前処置の目的と意義を説明できる。
- 4) 窩洞形成の意義と方法を説明できる。
- 5) 修復材料とその取扱い、修復法の適応を説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	総論および歯の硬組織疾患	陸田 明智
2	う蝕および診査・診断	陸田 明智
3	前準備、切削器具および窩洞	陸田 明智
4	コンポジットレジン修復	陸田 明智
5	グラスアイオノマーセメント修復	陸田 明智
6	メタルインレー修復	陸田 明智
7	その他の修復処置	陸田 明智
8	変色歯の処置	陸田 明智
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	最新歯科衛生士教本（歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法），プリント
成績評価法	定期試験，レポート等
備考・実務経験等	大学歯科診療室にて歯科医師として勤務

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☐ 専門基礎分野 ☒ 専門分野 ☐ 選択必修分野				
授業科目名	歯内療法学		担当教員	角 祥太郎	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期		学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

歯内療法は主に象牙質深部、歯髄、根管、根尖歯周組織を対象としており、日常臨床においても行われる頻度は高い。また他の治療と大きく異なる点は、肉眼で直視することが非常に難しいことである。従って治療を成功に導くためには、疾患の病態や症状をしっかりと把握すると共に、きちんとした術式で治療をすすめていくことが極めて大切である。加えて部位の特異性から各種薬剤や小器具を使うことも多いので、その特徴や使用方法も十分理解することが必要である。講義においては、歯内療法を必要とする各種疾患について鑑別診断を含めてその特徴を説明することからはじめ、各治療法を適応症、禁忌症、使用器具、使用薬剤、治療術式等について分かりやすく話を進めていく予定である。

【 到達目標（S B O） 】

- ・ 歯髄疾患及び根尖性歯周疾患の臨床症状を理解する。
- ・ 各治療法について適応症、禁忌症、使用器具、使用薬剤、治療術式等をしっかりと学習する。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	歯内治療総論、歯髄疾患、根尖性歯周疾患	角 祥太郎
2	診査 診断、歯髄鎮静療法	角 祥太郎
3	覆髄、断髄	角 祥太郎
4	抜髄、感染根管治療概論	角 祥太郎
5	根管の機械的清掃	角 祥太郎
6	根管の化学的清掃、根管消毒	角 祥太郎
7	根管充填	角 祥太郎
8	外科的根管治療、根管治療時の偶発事故	角 祥太郎
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	保存修復・歯内療法（医歯薬出版）
成績評価法	定期試験、レポート点を加味する。
備考・実務経験等	歯科医院にて歯科医師として勤務

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☒ 専門分野		☐ 選択必修分野		
授業科目名	歯周治療学		担当教員	大久保 信貴		授業形態	☒ 講義	☐ 実習	
開講時期	☐ 前期		☒ 後期		学 年	1 学年		単位数	1

【 一般目標（G I O） 】		
歯科衛生士にとって必要な歯周病学に関する基礎的な知識を身に付ける		
【 到達目標（S B O） 】		
・歯周治療を行う上で必要な歯周組織の構造について説明できる。		
・歯周病の原因とリスクファクターを列挙できる。		
・歯周病検査について列挙できる。		
・歯周治療の流れについて説明できる。		
・歯周基本治療及び歯周外科治療について目的や適応症を列挙できる。		
・サポータティブペリオドンタルセラピー（SPT）及びメインテナンスの目的と方法を説明できる。		
【 授業内容 】		

回	授 業 内 容	担当教員
1	歯周病概論・歯周組織の構造と機能	大久保 信貴
2	歯周病の分類と原因	大久保 信貴
3	歯周病の検査	大久保 信貴
4	歯周治療の流れ・歯周基本治療①	大久保 信貴
5	歯周基本治療②	大久保 信貴
6	歯周外科治療①	大久保 信貴
7	歯周外科治療②・口腔機能回復治療	大久保 信貴
8	サポータティブペリオドンタルセラピー（SPT）とメインテナンス	大久保 信貴

教科書・参考書	歯科衛生学シリーズ「歯周病学 第2版」（医歯薬出版株式会社）
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	歯科医院にて歯科医師として勤務

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野	
授業科目名	歯科補綴学		担当教員	米山喜一	授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期		学 年	1 学年	単位数	1

【 一般目標（G I O） 】

歯科補綴学は歯および歯列の欠損のある患者に、補綴装置を用いて形態、機能および審美の回復を図ることを目的とした歯科医学である。

補綴方法および補綴装置を理解し、補綴治療の準備や補助さらに歯の欠損を拡大しないための予防や補綴的プラークコントロールなどを学習する。☒

- 【 到達目標（S B O） 】
- 1. 歯科補綴治療の意義と目的を説明することができる。
 - 2. 歯冠補綴法についてわかりやすく説明することができる。
 - 3. 欠損補綴法についてわかりやすく説明することができる。
 - 4. 歯科補綴治療に使用する材料，器具，機材について説明することができる。
 - 5. 歯科補綴治療を受けた患者に対する各種指導を明瞭かつわかりやすく説明できる。 ☒

回	授 業 内 容	担当教員
1	補綴治療の概要、オーラルフレイル、歯の欠損に伴う生理的变化	米山喜一
2	補綴歯科治療の方法と補綴装置①（固定性補綴装置：クラウン・ブリッジ） ☒	米山喜一
3	補綴歯科治療の方法と補綴装置②（可撤性補綴装置：全部床義歯・部分床義歯）	米山喜一
4	補綴歯科治療の方法と補綴装置③（可撤性補綴装置：部分床義歯・特殊な口腔内装置）	米山喜一
5	補綴歯科治療の基礎知識（歯列と咬合、補綴学的基準平面、口腔の機能、顎関節の構造・機能と病態）	米山喜一
6	補綴歯科治療における検査（医療面接と診察、口腔内の検査、画像検査、咬合と顎口腔機能の検査）	米山喜一
7	クラウン・ブリッジ治療の概要（クラウン治療の概要、ブリッジ治療の概要、CAD/CAMクラウン・ブリッジ治療の概要）	米山喜一
8	クラウン・ブリッジ治療の流れと診療の補助①（クラウン・ブリッジ治療）	米山喜一
9	クラウン・ブリッジ治療の流れと診療の補助②（CAD/CAMクラウン・ブリッジ治療	米山喜一
10	クラウン・ブリッジ治療に関連する併発症とその対応	米山喜一
11	全部床義歯治療の概要、全部床義歯治療の流れと診療の補助①	米山喜一
12	全部床義歯治療の流れと診療の補助② 全部床義歯治療に関連する併発症	米山喜一
13	部分床義歯治療の概要	米山喜一
14	部分床義歯治療の流れと診療の補助、部分床義歯治療に関連する併発症 ☒	米山喜一
15	特殊な口腔内装置を用いる治療	米山喜一

教科書・参考書	歯科衛生士シリーズ 歯科補綴学（一社 全国歯科衛生士教育協議会監修）医歯薬出版☒
成績評価法	授業中の態度、出席、定期試験の成績を総合して判定する。
備考・実務経験等	大学歯科診療室にて歯科医師として勤務中

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☐ 専門基礎分野 ☒ 専門分野 ☐ 選択必修分野				
授業科目名	口腔外科学		担当教員	山根 源之	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期		学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

口腔・顎顔面疾患ならびに全身的疾患に随伴する症候性疾患の口腔症状の診断と治療を理解する。これらに対して、適切で安全な治療を行うための歯科衛生士としての役割を学ぶ。また、外科治療には全身状態の評価と局所および全身麻酔の実施が必須であり、さらに術前・術中・術後の患者管理、および意識消失や心停止などの場合に救急蘇生法が実施できるように歯科麻酔学の知識と基本的技能を習得する。

- 【 到達目標（S B O） 】
- 1.口腔・顎顔面に見られる疾患ならびに全身的疾患に随伴する口腔症状を概説できる。
 - 2.口腔外科診療の実際を理解し習得する。
 - 3.口腔外科治療に際しての全身状態の評価、全身的疾患について概説できる。
 - 4.歯科麻酔学として患者管理、局所麻酔法、精神鎮静法、全身麻酔法、緊急時の対応を理解し習得する。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	I 編 顎口腔領域の疾患 1.口腔外科の概要 2.生々思堂と登々思堂	山根 源之
2	3.損傷	山根 源之
3	4-1.口腔粘膜疾患 1	山根 源之
4	4-2.口腔粘膜疾患 2	山根 源之
5	5.炎症	山根 源之
6	6.嚢胞	山根 源之
7	7.腫瘍および腫瘍類似疾患	山根 源之
8	8.顎関節疾患	山根 源之
9	9.唾液腺疾患	山根 源之
10	10.神経系疾患	山根 源之
11	11.血液疾患 ・ （12章 口腔心身症は予防医学で講義）	山根 源之
12	12. II 編 口腔外科診療の実際 1 （1、2章は予防医学で講義）	山根 源之
13	13. II 編 口腔外科診療の実際 2	山根 源之
14	14. III 編 1. 歯科治療と麻酔 1	山根 源之
15	15. III 編 2. 歯科治療と麻酔 2 (IV編 歯科衛生士が担う围術期の口腔健康管理は予防医学で講義)	山根 源之

教科書・参考書	1.歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学，医歯薬出版，2026年2月10日，第2版第2刷
成績評価法	定期試験（筆記）による判定にレポート点を加味する
備考・実務経験等	歯科大学診療室にて歯科医師として勤務

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	予防的歯石除去法 I		担当教員	石川 麻衣
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年	1 学年
			単位数	2

【 一般目標（G I O） 】

歯科予防処置における歯科衛生士の役割を理解し、口腔衛生管理を目的とした予防的歯石除去を安全・適確に行うための知識・技術・態度を習得する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 歯科予防処置の概念と内容を説明できる。
- 2) 歯科予防処置の法的位置づけを説明できる。
- 3) 歯科予防処置の範囲と業務を説明できる。
- 4) スケーラーの種類と使用目的を説明できる。
- 5) シックル型スケーラーを操作できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	予防的歯石除去の基礎知識	石川 麻衣
2	シックル型スケーラーの基礎知識 ①	石川 麻衣
3	シックル型スケーラーの基礎知識 ②	石川 麻衣
4	シックル型スケーラー操作の 4 原則 ①	石川 麻衣
5	シックル型スケーラー操作の 4 原則 ②	石川 麻衣
6	シックル型スケーラー操作の 4 原則 ③	石川 麻衣
7	歯式と方向用語	石川 麻衣
8	運動方法 実技試験 ①	石川 麻衣
9	運動方法 実技試験 ②	石川 麻衣
10	シックル型スケーラー操作 1・2 群 説明・机上訓練	石川 麻衣
11	シックル型スケーラー操作 1 群 マネキン操作訓練 ①	石川 麻衣
12	シックル型スケーラー操作 1 群 マネキン操作訓練 ②	石川 麻衣
13	シックル型スケーラー操作 2 群 マネキン操作訓練 ①	石川 麻衣
14	シックル型スケーラー操作 2 群 マネキン操作訓練 ②	石川 麻衣
15	シックル型スケーラー操作 3・4 群 説明・机上訓練 ①	石川 麻衣

16	シックル型スケーラー操作 3・4 群 マネキン操作訓練 ①	石川 麻衣
17	シックル型スケーラー操作 3・4 群 マネキン操作訓練 ②	石川 麻衣
18	シックル型スケーラー操作 5・6 群 説明・机上訓練	石川 麻衣
19	シックル型スケーラー操作 5・6 群 マネキン操作訓練 ①	石川 麻衣
20	シックル型スケーラー操作 5・6 群 マネキン操作訓練 ②	石川 麻衣
21	シックル型スケーラー操作 7・8 群 説明・机上訓練	石川 麻衣
22	シックル型スケーラー操作 7・8 群 マネキン操作訓練 ①	石川 麻衣
23	シックル型スケーラー操作 7・8 群 マネキン操作訓練 ②	石川 麻衣
24	シックル型スケーラー操作 9・10・11・12 群 説明・机上訓練	石川 麻衣
25	シックル型スケーラー操作 9・10 群 マネキン操作訓練 ①	石川 麻衣
26	シックル型スケーラー操作 9・10 群 マネキン操作訓練 ②	石川 麻衣
27	シックル型スケーラー操作 11・12 群 マネキン操作訓練 ①	石川 麻衣
28	シックル型スケーラー操作 11・12 群 マネキン操作訓練 ②	石川 麻衣
29	シックル型スケーラー操作 実技試験 ①	石川 麻衣
30	シックル型スケーラー操作 実技試験 ②	石川 麻衣

教科書・参考書	全国歯科衛生士教育協議会監修：歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）
成績評価法	出席状態、授業・実習態度、提出物、定期試験
備考・実務経験等	歯科診療所にて歯科衛生士としての実務経験

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	う蝕予防処置法 I		担当教員 遠水 千恵	授業形態 ☒ 講義 ☒ 実習
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年 1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

う蝕について理解し、う蝕予防処置に応薬物や用される薬物や材料、器具について正しい知識を習得する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 歯科衛生士の法的な位置づけを説明できる。
- 2) う蝕の分類および原因とプロセスを説明できる。
- 3) う蝕予防処置の応用について説明できる。
- 4) フッ化物によるう蝕予防法を説明できる。
- 5) う蝕予防処置に応用される薬物や材料について説明でできる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	う蝕予防処置の概要 I	遠水 千恵
2	う蝕予防処置の概要 II	遠水 千恵
3	う蝕予防処置の概要 III	遠水 千恵
4	う蝕予防処置の概要 IV	遠水 千恵
5	フッ化物の基礎知識	遠水 千恵
6	フッ化物の応用法 I	遠水 千恵
7	フッ化物の応用法 II	遠水 千恵
8	フッ化物の応用法 III ①	遠水 千恵
9	フッ化物の応用法 III ②	遠水 千恵
10	フッ化物洗口について I	遠水 千恵
11	フッ化物洗口について II	遠水 千恵
12	フッ化物洗口について	遠水 千恵
13	フッ化物配合歯磨剤について	遠水 千恵
14	フッ化物配合歯磨剤について	遠水 千恵
15	まとめ	遠水 千恵

教科書・参考書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第 2 版 歯科衛生学シリーズ 保健生態学
成績評価法	出席状態、授業・実習態度、提出物、定期試験
備考・実務経験等	歯科医院にて歯科衛生士として勤務経験あり

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	栄養指導		担当教員 高野 由美子	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年 1 学年	単位数 1

【一般目標（GIO）】

歯科衛生士が行う食生活指導の役割を理解し、食生活改善のために必要な基礎を習得する。
また、対象者の望ましい食習慣への行動の維持・継続化に向けた歯科衛生士の支援を理解する。

【到達目標（SBO）】

- 1) 歯科衛生士が行う食生活指導の目的と方法を述べることができる。
- 2) 食事摂取基準に示されたエネルギーと栄養素の各指標を説明できる。
- 3) 各ライフステージの特徴と栄養ケアについて説明できる。
- 4) 栄養ケア・マネジメントと歯科衛生士の関わりを説明できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	健康と栄養Ⅱ 日本人の食事摂取基準、食の安全	高野 由美子
2	食事と食品Ⅰ 食事の基本、食事バランスガイド 栄養バランスのとれた食生活、課題説明	高野 由美子
3	食事と食品Ⅱ 食品群の分類、食品の機能 食品に含まれる栄養素	高野 由美子
4	食事と食品Ⅲ 食品表示 特別用途食品、保健機能食品、食品添加物	高野 由美子
5	食事と食品Ⅳ 食品の調理 食品の物性、摂食嚥下機能に合わせた調理の工夫	高野 由美子
6	ライフステージと栄養Ⅰ 妊娠・授乳期 妊娠・授乳期における栄養ケア	高野 由美子
7	ライフステージと栄養Ⅱ 乳児期・幼児期 乳児期・幼児期における栄養ケア	高野 由美子
8	ライフステージと栄養Ⅲ 学童期・思春期・成人期 学童期・思春期・成人期における栄養ケア	高野 由美子
9	ライフステージと栄養Ⅳ 高齢期 高齢期における栄養ケア	高野 由美子
10	病態別栄養 肥満症、糖尿病、高血圧症、慢性腎臓病、脂質異常症、悪性腫瘍 骨粗鬆症、認知症、慢性閉塞性肺疾患	高野 由美子
11	代用甘味料（種類・甘味度・エネルギー量）	高野 由美子
12	栄養指導計画立案（演習） 提出課題からの分析による指導計画の作成	高野 由美子
13	栄養ケア・マネジメントⅠ 栄養スクリーニング、栄養アセスメントⅠ	高野 由美子
14	栄養ケア・マネジメントⅡ 栄養アセスメントⅡ、栄養ケア計画	高野 由美子
15	栄養指導まとめ	高野 由美子

教科書・参考書	人体の構造と機能3「栄養学」：医歯薬出版、食品成分表：女子栄養大学出版部 歯科予防処置論・歯科保健指導論：医歯薬出版、配布プリント
成績評価法	期末試験
備考・実務経験等	歯科診療室にて歯科衛生士として勤務経験あり

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	歯科診療補助実習Ⅱ		担当教員	細矢・大島
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年	1 学年
			単位数	2

【 一般目標（G I O） 】 基礎マネキン実習において手技の訓練を行うとともに、相互実習に向けて患者心理に配慮しながらマネキンの取り扱い方を習得する。 相互実習においては、感染予防対策に留意し手技の訓練とともに患者心理を理解する。
【 到達目標（S B O） 】 ①歯科用器機を正しく取り扱う。 ②的確な共同動作を実施する。 ③歯科治療に用いる器具・器材・薬品の名称・用途を説明、操作できる。 ④レジン充填の術式を理解する。 ⑤印象採得を行い、適切な口腔模型を作製する。 ⑥印象採得時の患者心理を理解する。
【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ユニット消毒（説明・演習）	細矢 尚子
2	〃	〃
3	共同動作Ⅰ（講義・実習）	大島 幸子
4	〃	〃
5	共同動作Ⅱ（説明・実習）	大島 幸子
6	〃	〃
7	印象材・模型材 復習（講義）	細矢 尚子
8	〃	〃
9	片顎印象採得相互実習（説明・実習）	細矢 尚子
10	〃	〃
11	咬合採得・ワックス（実習）	細矢 尚子
12	〃	〃
13	レジン充填Ⅰ（講義・実習）	大島 幸子
14	〃	〃
15	レジン充填Ⅱ（講義・実習）	大島 幸子

16	〃	〃
17	仕上げ研磨 (講義・実習)	大島 幸子
18	〃	〃
19	全顎印象採得 基礎実習 (説明・実習)	大島 幸子
20	〃	〃
21	全顎印象採得 相互実習 (講義・実習)	大島 幸子
22	〃	〃
23	ゴム質印象材 (講義・実習)	細矢 尚子
24	〃	〃
25	寒天・アルジネート連合印象採得 基礎実習 (講義・実習)	大島 幸子
26	〃	〃
27	寒天・アルジネート連合印象採得 相互実習 (説明・実習)	大島 幸子
28	〃	〃
29	模型台作製 (説明・実習)	細矢 尚子
30	〃	〃

教科書・参考書	歯科診療補助論・全国歯科衛生士教育協議会監修／医歯薬出版 同歯科材料・歯科機器／医歯薬出版
成績評価法	客観試験・実技試験・口頭試問・レポート・作品等 ※中間試験なし
備考・実務経験等	歯科医院にて歯科衛生士として勤務経験あり ※オフィスアワー 授業前後教室やいつでも9階教務課にて質問を受けます。

2026年度 前期時間割

【 第2学年 】

2025年度入学 41期生

時限	1		2		3		4
	9:00~10:30		10:40~12:10		12:30~14:00		14:10~15:40
月	<u>歯科診療補助 実習Ⅲ</u> 細矢	<u>障害者 歯科学</u> 佐藤 (望月)	<u>歯科診療補助 実習Ⅲ</u> 細矢	<u>障害者 歯科学</u> 佐藤	<u>臨床検査学</u> 谷岡 (遠水)		予備
火	<u>歯科保健指導Ⅱ</u> 喜田 (大島)		<u>歯科保健指導Ⅱ</u> 喜田		<u>ペン字</u> 小宮		予備
水	<u>高齢者歯科学</u> 下山 (望月)		<u>歯科 放射線学</u> 和光 (細矢)	<u>う蝕予防処置 法Ⅱ</u> 遠水	<u>歯科 放射線学</u> 和光	<u>う蝕予防処置 法Ⅱ</u> 遠水	予備
木	<u>介護・ 応急処置</u> 新井 田守	<u>インプラント・ 審美歯科学</u> 熱田	<u>保険事務</u> 澤田	<u>矯正学</u> 宮本 (細矢)	<u>小児歯科学</u> 今村 (細矢)	<u>矯正学</u> 宮本	予備
金	<u>予防的歯石除去法Ⅱ</u> 遠水		<u>予防的歯石除去法Ⅱ</u> 遠水		<u>衛生統計学</u> 植野 (遠水)	<u>衛生行政学</u> 植野 (遠水)	予備
土	予備		予備		予備		予備

2026年度 後期（10～12月）時間割

【 第2学年 】

2025年度入学

41期生

時限	1	2	3		4
	9:00～10:30	10:40～12:10	12:30～14:00		14:10～15:40
月	<u>歯科診療補助実習Ⅳ</u> 細矢	<u>歯科診療補助実習Ⅳ</u> 細矢	予備		予備
火	<u>予防医学</u> 山根	<u>予防医学</u> 山根	<u>情報科学Ⅱ</u> 澤田	<u>ペン字</u> 小宮	予備
水	<u>予防的歯石除去法Ⅲ</u> 遠水	<u>総合研究Ⅱ</u> 清水	<u>社会福祉</u> 田中 (大島)		予備
木	<u>歯科診療補助実習Ⅳ</u> 細矢	<u>歯科診療補助実習Ⅳ</u> 細矢	<u>歯科衛生士概論Ⅱ</u> 玉置		予備
金	<u>予防的歯石除去法Ⅲ</u> 遠水	<u>予防的歯石除去法Ⅲ</u> 遠水	<u>予防的歯石除去法Ⅲ</u> 遠水		予備
土	予備	予備	予備		予備

2026年度 後期（1～3月）時間割

【 第2学年 】

2025年度入学

41期生

月	9:00~16:00/10:00~17:00			
	臨床実習			
火	9:00~16:00/10:00~17:00			
	臨床実習			
水	9:00~16:00/10:00~17:00			
	臨床実習			
時限	1	2	3	4
木	9:30~	~12:40	12:30~14:00	14:10~15:40
	総合研究Ⅱ 細矢	総合研究Ⅱ 細矢	予備	予備
金	9:00~16:00/10:00~17:00			
	臨床実習			
土	予備	予備	予備	予備

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	衛生行政		担当教員	植野正之
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年	2 学年
			単位数	1

【 一般目標（G I O） 】
国民の健康保持・増進に関するサービスを円滑に提供していく上で、サービスの受け手である人々と医療関係者 との信頼関係は不可欠であり、通常の業務を行う上で社会との関わりや社会的なシステムについてよく把握して おくことが必要となる。
それゆえ、医療関係職種や医療提供施設などの関連業務についての法律や制度を習熟することを目標とする。

【 到達目標（S B O） 】
社会の仕組みの根幹をなす法律およびそれを動かしている行政について理解し、さらに歯科衛生行政ならびに歯科衛生士に関する法律や制度の本質を学習することにより、歯科衛生士の業務が保健・医療・福祉制度のもとで国民の健康生活と深く関わっていることを認識して、歯科保健医療の専門的担当者としての歯科衛生士の資質を培うことができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	衛生行政と歯科衛生士	植野正之
2	歯科衛生士法	植野正之
3	医療関係職種とその法規	植野正之
4	その他の衛生関係法規	植野正之
5	社会保障・社会保険	植野正之
6	社会福祉・公的扶助	植野正之
7	歯科保険診療	植野正之
8	医療安全管理	植野正之
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度 医歯薬出版
成績評価法	定期試験にレポート点を加味する。
備考・実務経験等	歯科大学病院にて歯科医師として勤務

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	衛生統計学		担当教員	植野 正之
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年	2 学年
			単位数	1

【 一般目標（G I O） 】

個人および集団の歯・口腔の健康と予防プログラムを構築するための保健情報を収集し、問題を発見し、活動 計画を立案し、実施し、評価するための衛生統計の基本的手法を習得する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 保健情報と保健統計を説明できる。
- 2) 疫学の定義と目的を説明できる。
- 3) 記述統計で用いる基本的指標を説明できる。
- 4) 口腔清掃状態および歯科疾患に関する指標を説明できる。
- 5) 保健情報と保健統計の分析・検定手順を説明できる。
- 6) 疫学で用いる手法を説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	基本統計学・歯に関する指標	植野 正之
2	疫学・統計学的検定法	植野 正之
3	データの収集・スクリーニングテスト	植野 正之
4	口腔清掃に関する指標とその他の指標	植野 正之
5	歯周疾患に関する指標とその他の指標	植野 正之
6	日本の保健統計調査	植野 正之
7	歯科口腔保健関連の統計調査	植野 正之
8	フッ化物濃度の計算	植野 正之
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学 医歯薬出版
成績評価法	定期試験にレポート点を加味する。

備考・実務経験等	歯科大学病院にて歯科医師として勤務
----------	-------------------

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☐ 専門基礎分野 ☒ 専門分野 ☐ 選択必修分野					
授業科目名	歯科矯正学		担当教員	宮本 豊	授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期		学 年	2 学年	単位数	1

【 一般目標（G I O） 】		
矯正臨床における診療介助や患者対応に必要な歯科矯正学の基礎知識を習得することを目的とする。		
【 到達目標（S B O） 】		
1）正常咬合および不正咬合の特徴を説明できる。 2）Angle分類の特徴と不正咬合との関連を説明できる。		
3）不正咬合の診断に必要な診査および検査内容を説明できる。 4）頭部エックス線規格写真分析の特徴と分析・評価法について説明できる。		
5）矯正力の種類とにそれに対する歯周組織の反応を説明できる。 6）不正咬合の種類や矯正力の違いから矯正装置を分類できる。 7）矯正治療に使用する器具・材料の特徴と使用法（操作手順）を説明できる。 8）矯正治療の補助および矯正患者管理の際の注意点を理解する。		
【 授業内容 】		

回	授 業 内 容	担当教員
1	歯科矯正学概論、成長発育	宮本 豊
2	正常咬合 不正咬合	宮本 豊
3	歯科矯正診断	宮本 豊
4	歯科矯正治療と力	宮本 豊
5	矯正装置 1	宮本 豊
6	矯正装置 2	宮本 豊
7	矯正歯科における歯科衛生士の業務	宮本 豊
8	国家試験問題演習	宮本 豊
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	歯科矯正学 第2版
成績評価法	定期試験 レポート点を加味する
備考・実務経験等	大学附属歯科病院にて歯科医師として勤務経験あり

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	小児歯科学		担当教員	今村由紀・泉聡子
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年	2 学年
			単位数	1

【一般目標（G I O）】
小児の口腔健康を守るために必要な知識を習得し、適切な予防処置やサポートを行えるようになることで、小児の健全な成長発育に寄与できる。

【到達目標（S B O）】
(1) 小児歯科の目的と一般（成人）歯科との違いを説明できる。(2) 小児の心身の発育、生理的特徴について説明できる。(3) 小児の歯、歯列、咬合の正常発育と異常を説明できる。(4) 小児の歯科疾患を説明できる。(5) 小児歯科における患者への対応法を説明できる。(6) 小児歯科治療の内容と診療補助について説明できる。(7) 障害児の歯科治療での留意点を説明できる。(8) 小児のう蝕予防について説明できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	小児歯科学概論 心身の発育	今村 由紀
2	小児の生理的特徴 顔面頭蓋の発育	今村 由紀
3	歯の発育とその異常 歯列・咬合の発育と異常	今村 由紀
4	障害児の歯科治療 う蝕予防	泉 聡子
5	小児の口腔健康管理 歯科診療室と器材の管理	泉 聡子
6	小児の歯科疾患 小児虐待	今村 由紀
7	小児期の特徴と歯科的問題 小児歯科における患者との対応法	今村 由紀
8	小児歯科における診療体系	今村 由紀
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	医歯薬出版株式会社 歯科衛生学シリーズ「小児歯科学」
成績評価法	定期試験 レポート点を加味する
備考・実務経験等	大学歯学部付属病院勤務（泉）、勤務経験、歯科医院にて勤務（今村）

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	歯科放射線学		担当教員	和光 衛
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年	2 学年
			単位数	1

【一般目標（GIO）】

エックス線の取り扱いと関連事項についての基本的知識を習得し、歯科衛生士の歯科診療補助業務としての役割、重要性ならびに歯科診療環境に対応した診療放射線のもつ意義を知る。

【到達目標（SBO）】

1. 放射線の種類・性質・影響について習得し説明できる。 2. 1)エックス線発生機序 2)口内法の種類と特徴 について習得し説明できる 3. パノラマ撮影の特殊性について説明できる。4. 口内法、パノラマ撮影における診療補助内容を習得する。 5. 1) 画像解剖 2)デジタル画像とアナログ画像の違いについて習得する。6. 口外法, 特殊画像検査の特徴と目的について説明できる。7. 1)写真処理と診療補助内容 2)放射線治療の概要と口腔ケアについて習得する。8. 放射線被曝のメカニズムと防護対策について習得し説明できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ヒト・歯科医療とエックス線の関わり、放射線の影響	和光 衛
2	エックス線画像の形成と口内法エックス線撮影（1）	和光 衛
3	口内法エックス線撮影（2）と歯科衛生士の役割 パノラマエックス線撮影と歯科衛生士の役割	和光 衛
4	エックス線解剖と失敗例、デジタル画像とその保存・管理・ネットワーク構築 （中間まとめ課題配布）	和光 衛
5	口外法エックス線撮影と特殊画像検査（CBCT, CT, MRI, US, VF, 核医学検査）	和光 衛
6	写真・画像処理と保管、放射線治療	和光 衛
7	放射線被ばく、生物学的作用および放射線防護	和光 衛
8	総合学習（問題演習）	和光 衛
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学第2版 全国歯科衛生士教育協議会 監修
成績評価法	定期試験（中間まとめ課題の提出内容も加味する）によって評価する。
備考・実務経験等	歯科大学附属医療センターにて歯科医師として勤務

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	障害者歯科学		担当教員	佐藤昌史
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年	2 学年
			単位数	1

【 一般目標（G I O）】 障害者の歯科保健指導や歯科診療補助を安全・適切に行うために、障害者を取り巻く環境や歯科医療におけるスペシャルニーズを理解し、主な各障害の特徴や留意点などの基本的知識を習得する。 また、歯科診療時に必要となる障害のある人への適切なコミュニケーションの方法や行動調整についての知識や態度について習得する。		
【 到達目標（S B O）】 ①歯科医療におけるスペシャルニーズを理解し、障害の概念や障害者の周りの環境や支援・福祉の概要について説明できる。 ②主な障害について、障害の特徴や診療時の留意事項について概要を説明することができる。 ③障害者の特徴に応じた歯科診療時のコミュニケーションの方法や行動調整、体動のコントロールなどの方法や留意点について説明できる。 ④障害者の口腔衛生管理や口腔機能管理の概要を説明できる。		
【 授業内容 】		
回	授 業 内 容	担当教員
1	障害および障害者とは（国際生活機能分類・ノーマライゼーションなど）	佐藤昌史
2	各種障害の特徴と留意点①（知的能力障害・Down症候群について）	佐藤昌史
3	各種障害の特徴と留意点②（自閉症スペクトラム障害・ADHD・限局性学習障害など）	佐藤昌史
4	各種障害の特徴と留意点③（脳性麻痺を中心に・てんかん）	佐藤昌史
5	各種障害の特徴と留意点④（筋ジストロフィー症・脊髄損傷・パーキンソン病・その他）	佐藤昌史
6	各種障害の特徴と留意点⑤（感覚器の障害・精神障害など）	佐藤昌史
7	歯科診療時の行動調整（行動療法・体動抑制・薬物的行動調整など）	佐藤昌史
8	障害者の口腔管理（口腔衛生管理・口腔機能管理・その他）試験の説明	佐藤昌史
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	歯科衛生学シリーズ「障害者歯科学第2版」医歯薬出版 (参考書)スペシャルニーズデンティストリー 医歯薬出版
成績評価法	定期試験による評価を主とし、授業への取組なども加味する
備考・実務経験等	大学歯科診療室と歯科医院にて歯科医師として勤務経験あり

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	高齢者歯科学		担当教員	下山和弘
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年	2 学年
			単位数	1

【 一般目標（G I O）】

高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の心身および口腔の特徴、高齢者に多い全身疾患・障害、高齢者の口腔健康管理についての基礎知識を習得する。

【 到達目標（S B O）】

- 1) 高齢者の置かれた社会環境について説明できる。
- 2) 高齢者の心身の特徴と加齢変化について説明できる。
- 3) 生活機能の評価について概説できる。
- 4) 高齢者に多い全身疾患・障害について概説できる。
- 5) 摂食嚥下機能の障害と評価について概説できる。
- 6) 摂食嚥下リハビリテーションについて概説できる。
- 7) 栄養評価と人工的栄養法について概説できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	高齢社会と健康	下山和弘
2	身体的機能の加齢変化	下山和弘
3	口腔・咽頭領域の加齢変化	下山和弘
4	生活機能の評価	下山和弘
5	高齢者の精神・心理的变化	下山和弘
6	高齢者に多い全身疾患・障害（1）	下山和弘
7	高齢者に多い全身疾患・障害（2）	下山和弘
8	高齢者に多い全身疾患・障害（3）	下山和弘
9	高齢者に多い全身疾患・障害（4）	下山和弘
10	摂食嚥下機能の障害と評価	下山和弘
11	摂食嚥下リハビリテーション（1）	下山和弘
12	摂食嚥下リハビリテーション（2）	下山和弘
13	栄養評価と人工的栄養法	下山和弘
14		
15		

教科書・参考書	教科書 歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学、医歯薬出版 参考書 下山和弘：基礎からわかる高齢者の口腔健康管理、医歯薬出版
成績評価法	定期試験、レポートの点を加味する。

備考・実務経験等	歯科大学附属病院にて歯科医師として勤務経験あり
----------	-------------------------

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	う蝕予防処置法Ⅱ		担当教員	遠水 千恵
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年	2 学年
			単位数	1

【一般目標（G I O）】

各う蝕予防処置の目的・術式・注意点について理解する。また、応用される薬物や材料・器具について正しい知識を身につけ、臨床で応用される技術を習得する。

【到達目標（S B O）】

- 1)フッ化物配合歯磨剤の特徴と使用方法を説明できる。
- 2)フッ化物洗口法の特徴と使用方法を説明できる。
- 3)集団における応用法を説明できる。
- 4)う蝕活動性試験を説明できる。
- 5)う蝕活動性試験の結果を分析し、結果に基づいた指導・処置が実施できる。
- 6)一般法によるフッ化物歯面塗布法を習得する。
- 7)トレー法によるフッ化物歯面塗布法を習得する。
- 8)イオン導入法によるフッ化物歯面塗布法を習得する。
- 9)小窩裂溝填塞法の手技を習得する。
- 10)フッ化ジアミン銀塗布法を習得する。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	フッ化物歯面塗布法(トレー法、イオン導入法、歯ブラシゲル法)	遠水 千恵
2	フッ化物歯面塗布法 基礎実習Ⅰ	遠水 千恵
3	う蝕活動性試験Ⅰ	遠水 千恵
4	フッ化物紙面塗布法Ⅱ	遠水 千恵
5	フッ化物紙面塗布法Ⅱ	遠水 千恵
6	う蝕活動試験Ⅱ	遠水 千恵
7	小窩裂溝填塞法Ⅰ	遠水 千恵
8	小窩裂溝填塞法Ⅱ	遠水 千恵
9	小窩裂溝填塞法Ⅱ	遠水 千恵
10	う蝕活動性試験 まとめ	遠水 千恵
11	衛生教育見学	遠水 千恵
12	フッ化物洗口・フッ化物配合歯磨剤について	遠水 千恵
13	う蝕活動性試験・フッ化物洗口実習確認・フッ化物紙面塗布法確認	遠水 千恵
14	フッ化物歯面塗布法Ⅲ 合同実習	遠水 千恵
15	まとめ	遠水 千恵

教科書・参考書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 歯科衛生学シリーズ 保健生態学
成績評価法	出席率、授業・実習態度、提出物、定期試験
備考・実務経験等	歯科医院にて歯科衛生士として勤務経験あり

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	予防的歯石除去法 II		担当教員	遠水 千恵
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年	2 学年
			単位数	2

【 一般目標（G I O）】

歯科予防処置における歯科衛生士の役割についてより理解を深め、口腔衛生管理を目的とした予防的歯石除去を安全・的確に行うための知識・技能・態度を向上させる。

【 到達目標（S B O）】

- 1) キュレットスケーラーの形態・特徴・用途について説明でき、マネキン上で正しく操作できる。
- 2) プロービング・コンタクトポイント測定について、器材の特徴・用途および正しい診査方法を説明できる。
- 3) 歯面研磨について、器材の特徴・用途の説明、正しい操作ができる。
- 4) 相互実習を行うにあたり、目的・心構え・実習内容・手順および学内用診療録の記入方法・カルテ記載用語について説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	相互実習について I（講義） ①	遠水 千恵
2	相互実習について I（講義） ②	遠水 千恵
3	エキスポローリング 基礎実習（講義）	遠水 千恵
4	エキスポローリング 基礎実習（実習）	遠水 千恵
5	プロービング・コンタクトポイント・動揺度測定 基礎実習 I（講義）	遠水 千恵
6	プロービング・コンタクトポイント・動揺度測定 基礎実習 I（実習）	遠水 千恵
7	プロービング・コンタクトポイント・動揺度測定 基礎実習 II（講義）	遠水 千恵
8	プロービング・コンタクトポイント・動揺度測定 基礎実習 II（実習）	遠水 千恵
9	歯面研磨・歯面清掃器 基礎実習 I（講義）	遠水 千恵
10	歯面研磨・歯面清掃器 基礎実習 II（講義）	遠水 千恵
11	歯面研磨・歯面清掃器 基礎実習 I（実習）	遠水 千恵
12	歯面研磨・歯面清掃器 基礎実習 II（実習）	遠水 千恵
13	キュレットスケーラーについて II（講義）	石川 麻衣
14	相互実習について II（講義）	遠水 千恵
15	キュレットスケーラー操作 1 群（講義）	石川 麻衣

16	シクルスケーリング 相互実習 口腔内診査（実習）	遠水 千恵
17	キュレットスケーラー操作 1 群（実習）および 2 群（講義）	石川 麻衣
18	シクルスケーリング 相互実習 口腔内診査（実習）	遠水 千恵
19	キュレットスケーラー操作 2 群実習および 1 群復習、3 群（講義）	石川 麻衣
20	シクルスケーリング 相互実習 1・2 群（実習）	遠水 千恵
21	キュレットスケーラー操作 3 群実習および 2 群復習、4 群（講義）	石川 麻衣
22	シクルスケーリング 相互実習 1・2 群（実習）	遠水 千恵
23	キュレットスケーラー操作 4 群実習および 3 群復習、5 群（講義）	石川 麻衣
24	シクルスケーリング 相互実習 3・4 群（実習）	遠水 千恵
25	キュレットスケーラー操作 5 群実習および 4 群復習、6 群（講義）	石川 麻衣
26	シクルスケーリング 相互実習 3・4 群（実習）	遠水 千恵
27	キュレットスケーラー操作 6 群実習および 5 群復習、7 群（講義）	石川 麻衣
28	シクルスケーリング 相互実習 5・6 群（実習）	遠水 千恵
29	キュレットスケーラー操作 7 群実習および 6 群復習、8 群（講義）	石川 麻衣
30	シクルスケーリング 相互実習 5・6 群（実習）	遠水 千恵

教科書・参考書	歯科衛生士学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」「歯周病学」（医歯薬出版）
成績評価法	定期試験・実技習熟度・各種提出物・出欠席状況・実習態度を総合評価
備考・実務経験等	歯科医院にて歯科衛生士として勤務経験あり

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	歯科診療補助実習Ⅲ		担当教員	細矢・大島
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年	2 学年
			単位数	2

【一般目標（G I O）】

歯科用材料を安全且つその性能を十分発揮できるよう取り扱いを習得する。
様々な症例に対応できる知識を身につけ、症例に合わせた器材準備の習得に努める。

【到達目標（S B O）】

- ①歯科用器械を正しく取り扱う。
- ②歯科治療に用いる器具・器材の用途を説明する。
- ③的確なラバーダム防湿を実施する。
- ④的確に仮封材を操作する。
- ⑤外科器具の名称・用途を説明する。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ラバーダム防湿Ⅰ（講義・実習）	大島 幸子
2	〃	〃
3	ラバーダム防湿Ⅱ（実習・試験）	大島 幸子
4	〃	〃
5	ラバーダム防湿Ⅲ（相互実習）	大島 幸子
6	〃	〃
7	歯内療法Ⅰ（講義・実習）	細矢 尚子
8	〃	〃
9	歯肉圧排・口腔内写真（講義・実習）	細矢 尚子
10	〃	〃
11	歯内療法Ⅱ（講義・実習・試験）	細矢 尚子
12	〃	〃
13	保存修復／口腔内写真撮影（講義・実習）	大島 幸子
14	〃	〃
15	口腔外科Ⅰ（講義・実習）	細矢 尚子

16	〃	〃
17	口腔外科 Ⅱ (講義・実習)	細矢 尚子
18	〃	〃
19	エックス線写真撮影 Ⅰ (講義・実習)	細矢 尚子
20	〃	〃
21	エックス線写真撮影 Ⅱ (講義・実習)	細矢 尚子
22	〃	〃
23	仮封材 (講義・実習)	大島 幸子
24	〃	〃
25	補綴 (クラウン) (講義・実習)	細矢 尚子
26	〃	〃
27	GC館内見学 (見学)	大島 幸子
28	〃	〃
29	器具テスト／トレーセッティング／ホワイトニング (試験・演習・講義)	細矢・大島
30	〃	〃

教科書・参考書	歯科材料・歯科機器・全国歯科衛生士教育協議会編集・医歯薬出版/ 歯科診療補助論・全国歯科衛生士教育協議会監修
成績評価法	客観試験・実技試験・口頭試問・レポート・作品等 ※中間試験なし
備考・実務経験等	歯科医院にて歯科衛生士として勤務経験あり ※オフィスアワー 授業前後教室やいつでも9階教務課にて質問を受けます。

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☐ 専門基礎分野 ☒ 専門分野 ☐ 選択必修分野				
授業科目名	臨床検査学		担当教員	谷岡その・他	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期		学 年	2 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

医療は臨床検査から始まり、検査結果に基づいて疾病の診断を行い、診断に基づいて治療を行う。
検査の解釈を誤れば、疾病は治癒ではなく、慢性化、場合によっては死亡などの転帰をたどることになる。
つまり、臨床検査とは医療の根幹をなす重要な医療行為である。本講義においては臨床検査の意義を理解するとともに、歯科診療に関係の深い一般的な臨床検査項目を中心に、その方法と結果の解釈などを学ぶ。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 歯科領域以外の検査の必要性について説明できる。
- 2) 検査の基準値について説明できる。
- 3) 検査のための測定機器の特徴を説明できる。
- 4) 生理機能検査を説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	検体検査 1（第10章 病理学的検査）	谷岡その
2	検体検査 2（第10章 病理学的検査）	谷岡その
3	検体検査 3（微生物領域）	谷岡その
4	検体検査 4（微生物領域）	谷岡その
5	生理検査 1（第 2 章生理機能検査）	谷岡その
6	画像検査（11章）	東博美
7	検体検査 5（血液検査）	藤本純光
8	試験	谷岡その
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	教科書：『臨床検査』 一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会 監修
成績評価法	定期試験60点、出席40点とする。59点以下は不可とする。 出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	病院・検査センター等の医療機関にて臨床検査技師としての勤務経験あり

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	歯科衛生士概論Ⅱ		担当教員	玉置まゆ
開講時期	☒ 前期	☒ 後期	学 年	2 学年
			単位数	1

【 一般目標（G I O） 】

専門的な知識の理解を深めると共に歯科医療と歯科保健における歯科衛生士の役割について確認する。
歯科衛生士法に基づく3つの業務（歯科予防処置・歯科診療補助・歯科保健指導）それぞれの重要性と社会の変化に対応できる専門家としての意識を持つ。

【 到達目標（S B O） 】

- 履修する講義・実習の重要性を常に意識する。
- 医療に携わるための学習であることを理解し学びを深める。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	オリエンテーションと理想の歯科衛生士	玉置まゆ
2	歯科衛生士とは 歯科衛生士の役割と専門性	玉置まゆ
3	歯、口腔の解剖と機能 基本構造、咀嚼嚥下発音機能、唾液の働き	玉置まゆ
4	口腔の健康と全身疾患との関係 う蝕と歯周病のメカニズム、生活習慣病と歯周病	玉置まゆ
5	歯科予防処置の基本 プラークコントロール、フッ化物応用やシーラント等予防的介入	玉置まゆ
6	歯科保健指導の方法論 ライフステージ別の患者とのコミュニケーション	玉置まゆ
7	歯科診療補助の基礎 診療アシスタントの役割、感染管理	玉置まゆ
8	前期まとめ 小テスト	玉置まゆ

教科書・参考書	歯科衛生士概論（医歯薬出版）
成績評価法	定期試験、レポート、授業態度等を加味する
備考・実務経験等	歯科医院にて歯科衛生士として勤務

歯科衛生士科 1 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	インプラント・審美歯科学		担当教員	熱田 互
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年	2 学年
			単位数	1

【一般目標（G I O）】

インプラント: インプラント手術のアシスタントワーク、メインテナンスを学び、インプラント治療におけるチーム医療の一翼を担えるようになるようにその基礎知識を習得する。

歯科審美: 審美歯科の分野における材料、保存修復学、歯周病学、デジタルデンティストリーを含めた審美歯科学の基礎知識の習得と、歯科衛生士が関わることが特に多いとされるホワイトニングに関する基礎知識を習得する。

【到達目標（S B O）】

- 1) インプラントの構造を説明できる
- 2) インプラント治療の流れを概説できる。
- 3) インプラント手術の手技を列挙できる。
- 4) インプラントの固定様式を列挙し、それぞれの利点欠点を説明できる。
- 5) インプラントのメインテナンスを概説できる。
- 6) 漂白法を列挙し、その概説ができる。
- 7) 審美治療の治療選択を列挙できる。
- 8) 審美治療の治療方法について説明ができる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	インプラントの基礎知識	熱田 互
2	インプラントの医療面接および検査診断	熱田 互
3	インプラント手術の準備とアシスタントワーク	熱田 互
4	インプラント補綴装置	熱田 互
5	インプラントのメインテナンスおよびインプラント周囲炎	熱田 互
6	審美治療 1 ホワイトニング	熱田 互
7	審美治療 2 審美修復	熱田 互
8	審美治療 3 審美修復	熱田 互
9		
10		

教科書・参考書	
成績評価法	定期試験の点数で判断する

備考・実務経験等	<u>歯科医院にて歯科医師として勤務</u>
----------	------------------------

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分		☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☒ 専門分野		☐ 選択必修分野			
授業科目名		応急処置		担当教員		新井 裕		授業形態		☒ 講義 ☐ 実習	
開講時期		☒ 前期 ☐ 後期		学 年		2 学年		単位数		1	

【 一般目標（G I O） 】

応急処置とは、突然のケガや病気、心停止や呼吸の停止に対して病院に行くまで、あるいは救急隊に引き継ぐまでに、その場に居合わせた人ができる手当てのことを言う。

この講義では応急処置の意味、目的、方法を学ぶだけでなく、基本的な知識である「バイタルサイン」や歯科医院で起こりうる偶発症、窒息の対応、熱傷、外傷 AEDの使用法について学びます。今後これからなっていく、超高齢社会においてこれらのことを学ぶことにより、医療人として最低限必要な知識を身につけ、実際に起こりうる緊急時に対応ができ、さらには応急処置ができるようになる。

【 到達目標（S B O） 】

応急処置と1次救命ができるようになる。

AEDが使用できる。

正常値を覚える。

☒

回	授 業 内 容	担当教員
1	応急処置の意義・目的、バイタルサイン、偶発症について☒	新井 裕
2	実際のCPRの方法、AEDの使用法、外傷について	新井 裕
3	熱傷について、まとめ	新井 裕
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	配布資料による
成績評価法	定期試。（レポートを加味する）

備考・実務経験等	歯科医院にて歯科医師として勤務
----------	-----------------

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	介護・応急処置		担当教員	田守 裕美子
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年	2 学年
			単位数	1

【 一般目標（G I O） 】

高齢者の増加に伴います介護の必要性が高まる中で、歯科衛生士に対するニーズ、役割も増えてきています。介護とはどのようなものなのか、全体像を把握するとともに、口腔ケアの意義・実践方法、摂食・嚥下障害などの介護における歯科の専門知識を深めることを目標とします。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 介護の内容、高齢者の心身の特徴、認知症の種類や特徴について概説できる
- 2) 介護サービスや訪問診療について理解を深め、口腔ケアの意義・実地方法について概説できる
- 3) 摂食・嚥下のメカニズムを理解し、その障害に対する嚥下検査法・訓練法について概説できる ☒

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	介護とは、高齢者の心身の特徴、認知症について	新井 裕
2	介護サービス、口腔ケアの意義・実地方法の実習、訪問診療について	新井 裕
3	摂食・嚥下障害、誤嚥性肺炎、嚥下検査法・訓練法について 小テスト	新井 裕
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	歯科衛生士のための口腔介護実践マニュアル、プリント
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	歯科医院にて歯科医師として勤務

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☒ 選択必修分野
授業科目名	礼儀作法		担当教員	阿部 洋子
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年	2 学年
			単位数	1

【一般目標（G I O）】

マナー、エチケット、礼儀作法などは、知っているのと得をするが、知らないと恥をかくもの。また堅苦しいものというイメージがあるのではないのでしょうか。それは、かつてマナーや礼儀作法の「決まり事」を知っている人々が、人を見下すための手段として利用した時代があったからです。けれどもマナーや礼儀作法の本来の目的は、温かい気持ちを相手に伝えることにあります。敬語も身分制度の名残などではありません。相手に対する「敬意の心」の表現方法です。このようにマナーや礼儀作法、敬語の本来の目的を理解して頂き、その上で、社会人、職業人として、状況別・年齢別のコミュニケーションのあり方、行動のあり方について、学んで頂きます。

【到達目標（S B O）】

- 1) 適切な敬語表現を使うことができる。
- 2) 患者さんの年齢により抱えている問題が異なることを知り、それに合わせた対応をすることができる。
- 3) メールによる対応が増えたとはいえ、歯科衛生士として大切な対面式および電話での苦情対応を処理すること ができる。

【授業内容】

回	日 時	授 業 内 容	担当教員
1	6月 2日	マナーの重要性について（マナー、エチケット、礼儀作法という言葉の説明。講義の概略）	阿部 洋子
2	6月 9日	挨拶の色々（1）人間関係の潤滑油、信頼感の形成としてのマナーの重要性。	阿部 洋子
3	6月23日	挨拶の色々（2）思いを伝えるための「言葉」や「仕草」	阿部 洋子
4	6月30日	敬語（1）クイズ形式で、正しい敬語表現を学ぶ（1）	阿部 洋子
5	7月 7日	敬語（2）クイズ形式で、正しい敬語表現を学ぶ（2）	阿部 洋子
6	7月14日	電話の応対（電話のかけ方・受け方。苦情電話の応対）	阿部 洋子
7	9月 1日	効果的な話し方（聞くこと。話すこと。書くこと）	阿部 洋子
8	9月 8日	応対の色々（年齢別患者応対。状況別患者応対）、マナーの色々	阿部 洋子
9	月 日		
10	月 日		
11	月 日		
12	月 日		
13	月 日		
14	月 日		
15	月 日		

教科書・参考書	プリント等
成績評価法	定期試験
備考・実務経験	実務経験なし

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分		☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☐ 専門分野		☒ 選択必修分野	
授業科目名	ペン字・書道			担当教員	小宮有舜・秋山桂翠		授業形態	☒ 講義	☒ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期			学 年	2 学年		単位数	1	

【一般目標（GIO）】

【実習】

日常生活や医療現場で、文字を書く場面は多くあるため、正しく読みやすい文字を書く方法を学習する。
また、よく使用する漢字の成り立ちや、ひらがな、カタカナの字源、基本的な使用例（数字、アルファベットも含む）

を学び、冠婚葬祭などに必要な語句等が、硬筆（ペン・筆ペン）で書けるようにする。

【課題】

手本を注意深く観察し、日常生活や医療現場で使用する文字を主に練習する。

【到達目標（SBO）】

1. 手本を注意深く観察するポイントを掴み、文字の結体を覚える。
2. 集中力を養い、正しく美しい実用的な文字の書き方を身につける。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1 4月21日(火)	『美しい文字を書くには』筆記用具の扱い方、姿勢、姓名、数字の練習	小宮有舜・秋山桂翠
2 5月12日(火)	『ひらがな、カタカナの字源と書き方』漢字の基本点画、筆順	小宮有舜・秋山桂翠
3 5月26日(火)	『封筒の表書き・裏書き、はがきの表書き』暑中見舞いを書いてみよう	小宮有舜・秋山桂翠
4 6月02日(火)	『文字や文章を美しく書くコツ』数字、アルファベット、都道府県など	小宮有舜・秋山桂翠
5 6月09日(火)	『日常生活・ビジネスでの基本実例』履歴書、FAX送信状、領収証など	小宮有舜・秋山桂翠
6 6月23日(火)	『筆ペンで書くには』祝儀袋の表書き、年賀状、芳名帳	小宮有舜・秋山桂翠
7 6月30日(火)	『ペン字講座の総まとめ』名文を書いてみよう	小宮有舜・秋山桂翠
8 7月07日(火)	【試験】授業で使ったペン・筆ペンによる実技・理論の筆記	小宮有舜・秋山桂翠
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	朝のペン字練習帖』千葉大学教授 樋口咲子著 ナツメ社
成績評価法	筆記試験
備考・実務経験等	医療事務ナシ(雅号:小宮有舜=本名:律子) 医療実務ナシ元高等学校教諭、中・高等学校非常勤講師(雅号:秋山桂翠=本名:京子)

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	予防医学（オーラルメディシン）	担当教員	山根 源之	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	2 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】
予防医学と歯科の関連についてオーラルメディシンを通して学習を行い習得する。 オーラルメディシンは、「口腔だけに視点を向けず、大局的立場に立ち、全身的背景を考慮した口腔疾患の診断と治療で、外科的なアプローチを主体とせずに口腔の医療にあたるもの」と定義されている。このためう蝕や歯周病以外の口腔疾患を知り、合併する全身的疾患を理解して、患者の背景を考えた上での安全な対応が出来る知識と基本的技能を習得する。さらに口腔が全身状態に影響し、全身状態(全身的疾患)が口腔の健康に影響することを具体的に理解する。
【 到達目標（S B O） 】
口腔疾患だけでなく、口腔の健康に影響する全身的疾患、歯科診療時に注意が必要な全身状態および全身的疾患を具体的に理解し、歯科診療の現場で活用できる知識を習得する。超高齢社会の我が国では、医学的に問題のある歯科患者(Medically complex dental patient) が増加している。このため外来診療だけでなく、居宅患者、入院患者、施設入所者患者に対する訪問診療の際に、歯科衛生士として必要な知識と基本的技能を習得する。
【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	総論:予防医学・オーラルメディシン(口腔内科)とは	山根 源之
2	各論: 1.患者情報の把握、診断と治療において歯科衛生士に必要な知識	山根 源之
3	2.全身的疾患に関連する口腔顎顔面疾患 1)全身的疾患と口腔顎顔面疾患 2)口腔粘膜疾患 3) 顎関節疾患は口腔外科	山根 源之
4	4)歯科(口腔)心身症 5)睡眠時無呼吸症	山根 源之
5	3.歯科診療に関する全身的疾患 1)循環器疾患患者の歯科診療	山根 源之
6	2)脳血管疾患(脳卒中後遺症)患者の歯科診療	山根 源之
7	3)代謝・内分泌疾患患者の歯科診療	山根 源之
8	4)消化器疾患(胃腸・食道疾患、肝疾患)の歯科診療	山根 源之
9	5)泌尿器疾患患者の歯科診療 6)周産期患者の歯科診療	山根 源之
10	7)アレルギー性疾患患者 8)自己免疫疾患患者 9)呼吸器疾患患者の歯科診療	山根 源之
11	10)血液疾患(血液凝固異常)患者の歯科診療	山根 源之
12	11)精神・神経疾患患者の歯科診療 12)感染症患者の歯科診療と院内感染対策	山根 源之
13	4.老年(高齢)者および要介護者への対応 1)老年(高齢)者 2)要介護者 口腔内科、オーラルフレイル、口腔機能低下、小児口腔症、訪問診療	山根 源之
14	5.チーム医療・連携医療および周術期口腔機能管理 1)チーム医療・連携医療 2)周術期 口腔機能管理、口腔学、放射線療法中の口腔機能管理、小児口腔症	山根 源之
15	6.口腔疾患の早期発見と予防および生活指導 1)口腔粘膜健診 2)全身の健康を考えた 口腔疾患の予防と指導、栄養学の重要性と歯科衛生士の役割	山根 源之

教科書・参考書	1.歯科衛生士のための口腔内科(全身と口腔をつなぐオーラルメディシン)、医歯薬出版、2026年1月20日、第1版第4刷 2.口腔内科学、永末書店、2026年2月24日、第4版第1刷
成績評価法	定期試験（筆記）による判定にレポート点を加味する。
備考・実務経験等	歯科大学診療室にて歯科医師として勤務経験あり

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☒ 選択必修分野
授業科目名	総合研究Ⅱ		担当教員	清水 宏祐
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年	1 学年
			単位数	1

【 一般目標（G I O） 】

医療系基礎分野および歯科臨床専門分野を幅広く学習して科目をまたいで学習した知識を統合し、実際の歯科診療を想定して知識を深める。また、インプットした知識を演習問題を通じてアウトプットしてみる。

【 到達目標（S B O） 】

1. 基礎医学科目の最低限必要な知識を習得する。
2. 複数の基礎医学的科目の知識を統合し、学習の理解を深める。
3. 問題演習を通じて知識の定着確認を行う。
4. 歯科臨床の実際について学び、学問を臨床に昇華させる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	医学基礎科目 1	清水 宏祐
2	医学基礎科目 2	清水 宏祐
3	医学基礎科目 3	清水 宏祐
4	臨床応用科目 1	清水 宏祐
5	臨床応用科目 2	清水 宏祐
6	臨床応用科目 3	清水 宏祐
7	演習問題とその解説 1	清水 宏祐
8	演習問題とその解説 2	清水 宏祐
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	特になし
成績評価法	提出物と出席、授業態度等によって成績を評価する。
備考・実務経験等	大学付属歯科病院にて歯科医師として勤務

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	社会福祉		担当教員	田中 剛
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年	2 学年
			単位数	1

【 一般目標（G I O） 】

社会福祉学とは乳幼児・児童・高齢者・障害者・生活困窮者等社会的弱者を対象とした福祉の増進や権利の擁護、そのための援助の方法や技術、福祉政策など社会的基盤と構造を考える学問である。

社会福祉とは狭義には社会保障の一分野であるが、広義には「人々の基本的ニーズに対応し、社会秩序がより良く機能するために強化し、条件を整備するための、法律・施策・援助・サービス体系」とされている。

本講義では歯科衛生士として必要な知識である社会保障に関連する法および制度とサービス体系、特に社会保険・公的扶助・社会福祉の分野を取り上げ、それらの体系的理解と知識の習得を目標とする。

【 到達目標（S B O） 】

- ・乳幼児・児童・高齢者・障害者・生活困窮者等の社会的弱者の今日的課題を説明できる。
- ・わが国における社会保険・公的扶助・社会福祉分野の法制度およびサービス体系を説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	社会福祉学 概説	田中 剛
2	医療保険制度	田中 剛
3	年金保険・労働者災害補償保険・雇用保険制度	田中 剛
4	介護保険制度（サービス体系）	田中 剛
5	介護保険制度（高齢者施策等）	田中 剛
6	公的扶助・生活保護制度	田中 剛
7	障害者福祉制度	田中 剛
8	女性・こども・高齢者福祉制度・まとめ	田中 剛
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	全国歯科衛生士教育協議会・監修「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度」医歯薬出版2023
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	なし

科目区分	☐ 基礎分野 ☐ 専門基礎分野 ☒ 専門分野 ☐ 選択必修分野					
授業科目名	歯科保健指導Ⅱ		担当教員	喜田さゆり	授業形態	☒ 講義 ☒ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期		学 年	2 学年	単位数	2

【 一般目標（G I O） 】 健康の概念を理解した上で、歯・口腔の健康を維持するための歯科衛生士の役割を理解し、専門的立場から歯科保健指導を行うために必要な知識・技能および態度を習得する。						
【 到達目標（S B O） 】 1）口腔衛生状態の指数・歯周疾患の指数について理解し、対象者の口腔の状態について把握することができる 2）各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を理解し説明できる。 3）各ライフステージ別の日常生活習慣行動と生活環境を把握することができる。 4）各ライフステージ別の口腔衛生指導および食生活指導ができる 5）対象者の日常生活自立度（ADL）について理解する 6）特別な配慮を要する者の特徴を理解し、口腔衛生指導ができる						
【 授業内容 】						

回	授 業 内 容	担当教員
1	イントロダクション・1年時の復習	喜田さゆり
2	口腔保健の意義・対象把握と予防管理	喜田さゆり
3	口腔衛生状態の指数・歯周疾患の指数	喜田さゆり
4	口腔衛生状態の指数・歯周疾患の指数	喜田さゆり
5	口腔衛生状態の指数・歯周疾患の指数 計算演習	喜田さゆり
6	口腔衛生状態の指数・歯周疾患の指数 復習 チャート作成の説明	喜田さゆり
7	ライフステージに対応した歯科衛生介入①妊産婦期	喜田さゆり
8	ライフステージに対応した歯科衛生介入①妊産婦期	喜田さゆり
9	ライフステージに対応した歯科衛生介入②乳児期	喜田さゆり
10	ライフステージに対応した歯科衛生介入②乳児期	喜田さゆり
11	ライフステージに対応した歯科衛生介入③幼児期	喜田さゆり
12	ライフステージに対応した歯科衛生介入③幼児期	喜田さゆり
13	ライフステージに対応した歯科衛生介入④学齢期	喜田さゆり
14	ライフステージに対応した歯科衛生介入④学齢期	喜田さゆり
15	チャート作成	喜田さゆり

16	チャート作成	喜田さゆり
17	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑤青年期	喜田さゆり
18	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑤青年期・チャート作成	喜田さゆり
19	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑥成人期	喜田さゆり
20	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑥成人期	喜田さゆり
21	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑦老年期	喜田さゆり
22	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑦老年期	喜田さゆり
23	配慮を要する者への歯科衛生介入①要介護高齢者	喜田さゆり
24	配慮を要する者への歯科衛生介入①要介護高齢者・チャート作成	喜田さゆり
25	歯科保健指導実習（チャートを使用した口腔衛生指導）	喜田さゆり
26	歯科保健指導実習（チャートを使用した口腔衛生指導）	喜田さゆり
27	配慮を要する者への歯科衛生介入 障害児者	喜田さゆり
28	大規模災害被災者	喜田さゆり
29	まとめ（１）	喜田さゆり
30	まとめ（２）	喜田さゆり

教科書・参考書	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」医歯薬出版， 歯科衛生学シリーズ「保健生態学」医歯薬出版， 歯科衛生学シリーズ「障害者歯科学」医歯薬出版， 歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」医歯薬出版
成績評価法	定期試験、小テスト、レポート、チャート作成、出席などによる総合評価
備考・実務経験等	病院・医療機関で勤務

歯科衛生士科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	予防的歯石除去法Ⅲ		担当教員	遠水 千恵
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年	2 学年
			単位数	2

【 一般目標（G I O） 】

これまでの基礎実習で習得した知識と技術を基に、相互実習を通して術者・補助者・患者の3者の役割を経験し、それぞれの立場での心構えや態度・技術・患者心理と患者配慮を理解する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) シックルスクーリングについて、正しい操作方法の理解を深め、口腔内で正確かつ安全な操作ができる。
- 2) 術者・補助者・患者の3者の役割を経験し、それぞれの立場での心構えや態度・技術・患者心理と患者配慮について説明、実施できる。
- 3) 感染予防対策および偶発事故対策についての知識を深め、医療人としての確に行動できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	超音波スクーラー・エアスクーラー 基礎実習（講義）	遠水 千恵
2	キュレットスクーラー操作 8群実習および7群復習、9群（講義）	石川 麻衣
3	シックルスクーリング 相互実習 7・8群（実習）	遠水 千恵
4	超音波スクーラー・エアスクーラー 基礎実習Ⅰ／Ⅱ（実習）	遠水 千恵
5	P M T C 基礎実習（講義）	遠水 千恵
6	キュレットスクーラー操作 9群実習および8群復習、10,11群（講義）	石川 麻衣
7	シックルスクーリング 相互実習 7・8群（実習）	遠水 千恵
8	超音波スクーラー・エアスクーラー 基礎実習Ⅰ／Ⅱ（実習）	遠水 千恵
9	P M T C 基礎実習（実習）	遠水 千恵
10	キュレットスクーラー操作10,11群実習および9群復習、12群（講義）	石川 麻衣
11	シックルスクーリング 相互実習 9・10群（実習）	遠水 千恵
12	超音波スクーラー 相互実習Ⅰ（実習）／超音波スクーラー（課題）	遠水 千恵
13	シャープニング（講義）	遠水 千恵
14	キュレットスクーラー操作12群実習および総復習	石川 麻衣
15	シックルスクーリング 相互実習 9・10群（実習）	遠水 千恵

16	超音波スケーラー 相互実習Ⅰ（実習）／超音波スケーラー （課題）	遠水 千恵
17	キュレットスケーラー操作11・12群および9・10群復習（実習）	石川 麻衣
18	シックルスケーリング 相互実習 11・12群（実習）	遠水 千恵
19	超音波スケーラー 相互実習Ⅱ エアスケーラー 歯面清掃器 相互実習（実習）	遠水 千恵
20	シャープニング（実習） キュレットスケーラー操作まとめ／11・12群復習（実習）	遠水 千恵
21	キュレットスケーラー操作11・12群および9・10群復習（実習）	石川 麻衣
22	シックルスケーリング 相互実習 11・12群（実習）	遠水 千恵
23	超音波スケーラー 相互実習Ⅱ エアスケーラー 歯面清掃器 相互実習（実習）	遠水 千恵
24	シャープニング（実習） キュレットスケーラー操作まとめ／11・12群復習（実習）	遠水 千恵
25	キュレットスケーラー操作 実技試験（実習）	石川 麻衣
26	P M T C 相互実習（実習）	遠水 千恵
27	まとめ（講義）	遠水 千恵
28	キュレットスケーラー操作 実技試験（実習）	石川 麻衣
29	P M T C 相互実習（実習）	遠水 千恵
30	患者実習について（講義）	遠水 千恵

教科書・参考書	歯科衛生士学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」「歯周病学」（医歯薬出版）
成績評価法	定期試験・実技習熟度・各種提出物・出欠席状況・実習態度を総合評価
備考・実務経験等	歯科医院にて歯科衛生士として実務経験あり

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☐ 専門基礎分野 ☒ 専門分野 ☐ 選択必修分野					
授業科目名	歯科診療補助実習 Ⅳ		担当教員	細矢・大島	授業形態	☒ 講義 ☒ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期		学 年	2 学年	単位数	2

【 一般目標（G I O）】		
【講義】		
多岐にわたる歯科診療補助において専門性の高い知識で、医療人として総合的な能力、態度を形成させる。		
【実習】		
より歯科診療に即した専門知識を活かし高度な技術を習得する。技術面だけでなく、様々な患者さまに対応するコミュニケーション能力を身に付ける。		
【 到達目標（S B O）】		
①歯科治療に用いる器具・器材・薬品の名称や用途が説明、操作できる。		
②プライヤーの名称・用途を列記できる。		
③補綴物の作製過程を理解し、説明できる。		
④暫間被覆冠作製の手順を列記できる。		
⑤各症例に合わせた器材を準備できる。		
⑥各症例に合わせた患者対応ができる。		
【 授業内容 】		
回	授 業 内 容	担当教員
1	矯正（講義・実習）	細矢 尚子
2	〃	〃
3	暫間被覆冠Ⅰ（講義）	細矢 尚子
4	〃	〃
5	暫間被覆冠Ⅱ（講義・実習）	細矢 尚子
6	〃	〃
7	暫間被覆冠Ⅲ（講義・実習）	細矢 尚子
8	〃	〃
9	歯周外科（講義・実習）	大島 幸子
10	〃	〃
11	小児歯科（講義・実習）	細矢 尚子
12	〃	〃
13	患者介助実習（高齢者）（講義・実習）	大島 幸子
14	〃	〃
15	歯科補綴（義歯）（講義・実習）	細矢 尚子

16	〃	〃
17	矯正テスト／トレーセッティング／外科器具（試験）	細矢 尚子
18	〃	〃
19	患者介助実習（障害者）（講義・実習）	大島 幸子
20	〃	〃
21	感染予防対策・滅菌・消毒・薬品（講義・実習）	細矢 尚子
22	〃	〃
23	患者介助実習（口腔ケア）（外部講義・実習）	大島 幸子
24	〃	
25	周術期における歯科診療補助／印象採得（予備実習）（講義・実習）	大島 幸子
26	〃	〃
27	診療室における事故と対策（講義・実習）	大島 幸子
28	〃	〃
29	レーザーについて／まとめ（講義・実習）	細矢 尚子
30	〃	〃

教科書・参考書	全国歯科衛生士挙育協議会編集・監修・医歯薬出版/同歯科機器/同歯科材料/ 歯科診療補助論 他
成績評価法	定期試験・実技試験・口頭試問・レポート・作品提出 ※小テストあり
備考・実務経験等	歯科医院にて歯科衛生士として実務経験あり ※オフィスアワー 授業前後に教室または 9 階教務課で質問を受けます。

2026年度 前期時間割

【 第3学年 】

2024年度入学 40期生

月	9:00~16:00/10:00~17:00						
	臨床実習						
火	9:00~16:00/10:00~17:00						
	臨床実習						
水	9:00~16:00/10:00~17:00						
	臨床実習						
時限	1		2		3		4
木	9:00~10:30		10:40~12:10		12:30~14:00		14:10~15:40
	歯科 保健指導Ⅲ 大島	予防的 歯石除去法Ⅳ 遠水	歯科 保健指導Ⅲ 大島	予防的 歯石除去法Ⅳ 遠水	歯科 保健指導Ⅲ 大島	予防的 歯石除去法Ⅳ 遠水	予備
金	9:00~16:00/10:00~17:00						
	臨床実習						
土	予備		予備		予備		予備

2026年度 後期（10～11月）時間割
【 第3学年 】

2024年度入学

40期生

月	9:00～16:00/10:00～17:00			
	臨床実習			
火	9:00～16:00/10:00～17:00			
	臨床実習			
水	9:00～16:00/10:00～17:00			
	臨床実習			
時限	1	2	3	4
木	9:00～10:30	10:40～12:10	12:30～14:00	14:10～15:40
	<u>歯科保健指導Ⅳ</u> <u>（口腔機能管理学）</u> 小谷	<u>歯科保健指導Ⅳ</u> <u>（口腔機能管理学）</u> 小谷	歯科医学総論	予備
金	9:00～16:00/10:00～17:00			
	臨床実習			
土	予備	予備	予備	予備

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	臨地・臨床実習演習		担当教員 歯科医師・細矢尚子・大島幸子・ 遠水千恵	授業形態 ☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年 2学年	単位数 1

【一般目標（G I O）】

これまでの基礎実習で学んできた知識・技術を歯科臨床の場に備えて円滑に遂行できるようにし、歯科衛生士としての心構えを認識する。

【到達目標（S B O）】

- 1) 医療人としての倫理観やコミュニケーション能力を養い、理解する。
- 2) 口腔健康管理を実施するための知識と技能を養い、理解する。
- 3) 患者の安全に配慮したアシスタントワークを理解する。
- 4) 安全に配慮した予防的歯石除去、歯科診療補助、歯科保健指導を理解する。

【授業内容】

- 1 歯科予防処置（患者実習）
- 2 歯科診療補助（歯内療法）
- 3 歯科診療補助（印象採得）
- 4 歯科診療補助（保存修復）
- 5 歯科診療補助（仮封材）
- 6 歯科診療補助（トレーセッティング）
- 7 歯科診療補助（補綴学）
- 8 歯科診療補助（材料学）
- 9 歯科保健指導（患者実習）
- 10 その他

教科書・参考書	各学年で使用した教科書：歯科衛生士教本全般
成績評価法	出席状況、習指導者による実習評価と課題レポートの期限内提出とその内容を総合的に評価します。
備考・実務経験等	歯科医院勤務の歯科医師と歯科医院にて歯科衛生士経験のある教員

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	臨地・臨床実習Ⅰ・Ⅱ		担当教員	実習指導者 細矢尚子・遠水千恵・大島幸子
開講時期	☒ 前期	☒ 後期	学 年	2・3学年
			単位数	20

【一般目標（GIO）】

2年次で学習した知識や経験をさらに確実なものにするため、一般歯科診療所で臨床実習を行う。学内で習得した知識・技能・態度を臨床実習の場において実践する能力や、さまざまな現場で活躍する歯科衛生士の役割を理解し将来の歯科衛生士像を具体化することを目的とする。

【到達目標（SBO）】

- 1) 医療人としての倫理観やコミュニケーション能力が身に付き応用できる。
- 2) 口腔健康管理を実施するための知識と技能が身に付き実践できる。
- 3) 患者の安全に配慮したアシスタントワークが実践できる。
- 4) 実習指導者の指示の下、安全に配慮した歯石除去、歯面研磨、う蝕予防処置を実践できる。

【授業内容】

第Ⅰ期（3か月）

一般・矯正・小児歯科、病院歯科

- ・各診療内容の細かな流れを理解する
- ・歯科用器具器材の取扱い方法を理解する
- ・協同動作を学ぶ
- ・歯科材料、薬剤の取り扱いを修得する

第Ⅱ期（3か月）

一般・矯正・小児歯科、病院歯科

- ・協同動作を理解し、実践できる
- ・対面、直接行為を実践できる
- ・歯科材料、薬剤の取り扱いを修得する。

第Ⅲ期（3か月）

一般・矯正・小児歯科、病院歯科

- ・協同動作を理解し、実践できる
- ・対面、直接行為を実践できる
- ・歯科材料、薬剤の取り扱いに習熟する
- ・実習総仕上げ（各自の課題から目標を設定し、最終仕上げ）

教科書・参考書	各学年で使用した教科書：歯科衛生士教本全般
成績評価法	臨床実習指導者による実習評価と実習帳・課題レポートの期限内提出とその内容を総合的に評価します。
備考・実務経験等	歯科医院勤務の歯科医師と歯科衛生士の指導員

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	歯科保健指導Ⅲ		担当教員	大島 幸子
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年	3 学年
			単位数	2

【 一般目標（G I O） 】

1 年次で取得した基本的な知識・技術をもとに口腔衛生指導で応用できる技術を取得する。
そして具体的な問題に対しての考え方を身につけ、個人や集団に最も合った歯科保健行動がとれるよう
助言・援助できる能力を養う。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 集団指導の役割を理解する。
- 2) 情報の整理をして指導案（原稿）を作製できる。
- 3) 伝達手段の媒体を作製することができる。
- 4) 集団指導を行う能力を身につける。
- 5) 具体的な問題点を見つけ出し解決法を検討できる能力を養う。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	保健指導の意義・地域歯科保健活動における健康教育について	大島 幸子
2	子どもの発達・小集団指導法・衛生教育についての説明	大島 幸子
3	衛生教育指導案の作成	大島 幸子
4	衛生教育指導案の作成	大島 幸子
5	原稿・チャートの作成	大島 幸子
6	原稿・チャートの作成	大島 幸子
7	原稿・チャートの作成	大島 幸子
8	原稿・チャートの作成	大島 幸子
9	原稿・チャートの作成、完成	大島 幸子
10	媒体作成	大島 幸子
11	媒体作成	大島 幸子
12	媒体作成	大島 幸子
13	媒体作成	大島 幸子
14	媒体作成	大島 幸子
15	媒体作成、完了	大島 幸子

16	発表の練習	大島 幸子
17	発表の練習	大島 幸子
18	学年内発表	大島 幸子
19	発表の練習	大島 幸子
20	講師チェック	大島 幸子
21	フィードバック	大島 幸子
22	リハーサル	大島 幸子
23	保育園衛生教育	大島 幸子
24	発表の練習	大島 幸子
25	リハーサル	大島 幸子
26	保育園衛生教育	大島 幸子
27	1, 2 年生へ発表	大島 幸子
28	小学校衛生教育最終確認	大島 幸子
29	衛生教育まとめ	大島 幸子
30	衛生教育まとめ	大島 幸子

教科書・参考書	歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）・口腔保健管理（医歯薬出版） 高齢者歯科学（医歯薬出版）
成績評価法	定期試験・小テスト・出席、授業態度・作品・発表等総合的に評価する
備考・実務経験等	歯科医院にて歯科衛生士としての勤務経験あり *オフィスアワー 授業前後教室やいつでも9階教務課にて質問を受けます。

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	歯科保健指導Ⅳ（口腔機能管理）		担当教員	小谷 朋子
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年	3 学年
			単位数	1

【一般目標（G I O）】

【講義】

口腔機能・摂食嚥下リハビリテーションを多面的に理解するために、背景を含めた基本的知識を習得する。

【実習】

講義で習得した食形態に関する知識を確実なものとするために、実践的な知識と評価方法を習得する。

【到達目標（S B O）】

- 1) 口腔機能低下症・オーラルフレイルについて概説できる。
- 2) 口腔機能精密検査と嚥下訓練の関連について概説できる。
- 3) 嚥下障害患者に対するスクリーニング法・精密検査について概説できる。
- 3) 摂食嚥下リハビリテーションに関わる歯科衛生士の役割について概説できる。
- 4) 摂食嚥下リハビリテーションに関わる多職種との連携に関して理解できる。
- 5) 栄養摂取ルートに関して概説できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	講義：高齢者歯科・口腔機能管理総論	小谷朋子
2	講義：歯科衛生士が関わるフレイル予防・介護施設の概要	小谷朋子
3	講義：口腔アセスメントツール（OHAT）の使用方法	小谷朋子
4	講義：口腔機能低下症の項目・検査方法/周術期口腔管理に関して	小谷朋子
5	講義：嚥下スクリーニング検査の種類・評価方法	小谷朋子
6	講義：嚥下精密検査の種類・評価方法	小谷朋子
7	講義：神経難病（パーキンソン病、ALS、多系統萎縮症）と嚥下障害	小谷朋子
8	講義：脳血管疾患と嚥下障害	小谷朋子
9	講義：間接訓練と直接訓練の概要	小谷朋子
10	講義：嚥下障害に対する代償法と舌接触補助床	小谷朋子
11	講義：経管栄養の種類と適応	小谷朋子
12	講義：テスト対策講座	小谷朋子
13	実習：フードケア協賛 介護食実習	小谷朋子
14	実習：フードケア協賛 介護食実習	小谷朋子
15	テスト解説	小谷朋子

教科書・参考書	教科書 歯科衛生士講座高齢者歯科学第2版、医歯薬出版株式会社 全国歯科衛生士教育協議会 監修/戸原玄 ほか編/植田耕一郎
成績評価法	定期試験、レポート課題、授業に取り組む態度、プロダクトの評価など、総合的な評価を行う。
備考・実務経験等	病院・歯科医院にて歯科医師として勤務

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	歯科保健指導Ⅳ（口腔機能管理）		担当教員	小谷 朋子
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年	3 学年
			単位数	1

【一般目標（G I O）】 【講義】 口腔機能・摂食嚥下リハビリテーションを多面的に理解するために、背景を含めた基本的知識を習得する。 【実習】 講義で習得した食形態に関する知識を確実なものとするために、実践的な知識と評価方法を習得する。 【到達目標（S B O）】 1) 口腔機能低下症・オーラルフレイルについて概説できる。 2) 口腔機能精密検査と嚥下訓練の関連について概説できる。 3) 嚥下障害患者に対するスクリーニング法・精密検査について概説できる。 3) 摂食嚥下リハビリテーションに関わる歯科衛生士の役割について概説できる。 4) 摂食嚥下リハビリテーションに関わる多職種との連携に関して理解できる。 5) 栄養摂取ルートに関して概説できる。 【授業内容】
--

回	授 業 内 容	担当教員
1	講義：高齢者歯科・口腔機能管理総論	小谷朋子
2	講義：歯科衛生士が関わるフレイル予防・介護施設の概要	小谷朋子
3	講義：口腔アセスメントツール（OHAT）の使用方法	小谷朋子
4	講義：口腔機能低下症の項目・検査方法/周術期口腔管理に関して	小谷朋子
5	講義：嚥下スクリーニング検査の種類・評価方法	小谷朋子
6	講義：嚥下精密検査の種類・評価方法	小谷朋子
7	講義：神経難病（パーキンソン病、ALS、多系統萎縮症）と嚥下障害	小谷朋子
8	講義：脳血管疾患と嚥下障害	小谷朋子
9	講義：間接訓練と直接訓練の概要	小谷朋子
10	講義：嚥下障害に対する代償法と舌接触補助床	小谷朋子
11	講義：経管栄養の種類と適応	小谷朋子
12	講義：テスト対策講座	小谷朋子
13	実習：フードケア協賛 介護食実習	小谷朋子
14	実習：フードケア協賛 介護食実習	小谷朋子
15	テスト解説	小谷朋子

教科書・参考書	教科書 歯科衛生士講座高齢者歯科学第2版、医歯薬出版株式会社 全国歯科衛生士教育協議会 監修/戸原玄 ほか編/植田耕一郎
成績評価法	定期試験、レポート課題、授業に取り組む態度、プロダクトの評価など、総合的な評価を行う。
備考・実務経験等	病院・歯科医院にて歯科医師として勤務

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	予防的歯石除去法Ⅳ		担当教員	遠水 千恵
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年	3 学年
			単位数	1

【 一般目標（G I O） 】

第1・2学年で習得した予防的歯石除去法の知識・技術・態度を基に、患者様に対してそれらを応用・駆使できる総合能力の充実を図る。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) キュレットスケーリングについて、正しい操作方法の理解を深め、口腔内で正確かつ安全な操作ができる。
- 2) 相互実習全般を主体的・積極的に進め、スケーリング・各検査を正確に行い、専門知識に基づいた口腔衛生管理についての考え方を身につけ、実践できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	キュレットスケーリング 相互実習について（講義）	遠水 千恵
2	キュレットスケーリング（基礎実習）	遠水 千恵
3	キュレットスケーリングⅠ（相互実習）	遠水 千恵
4	キュレットスケーリングⅠ（相互実習）	遠水 千恵
5	キュレットスケーリングⅡ（相互実習）	遠水 千恵
6	キュレットスケーリングⅡ（相互実習）	遠水 千恵
7	キュレットスケーリングⅢ（相互実習）	遠水 千恵
8	キュレットスケーリングⅢ（相互実習）	遠水 千恵
9	キュレットスケーリングⅣ（相互実習）	遠水 千恵
10	キュレットスケーリングⅣ（相互実習）	遠水 千恵
11	スケーリング実習 総復習（相互実習）	遠水 千恵
12	スケーリング実習 総復習（相互実習）	遠水 千恵
13	予防的歯石除去法 まとめ（講義）	遠水 千恵
14	予防的歯石除去法 まとめ（講義）	遠水 千恵
15	予防的歯石除去法 総復習（講義）	遠水 千恵

教科書・参考書	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」「歯周病学」（医歯薬出版）
成績評価法	定期試験・実技習熟度・各種提出物・出欠席状況・実習態度を総合評価
備考・実務経験等	歯科医院にて歯科衛生士として勤務経験あり

歯科衛生士科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☒ 選択必修分野
授業科目名	歯科医学総論		担当教員 角祥太郎・田村幸彦・倉島竜哉・清水宏祐・唐木田丈夫 他	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年 3 学年	単位数 5

【 一般目標（G I O） 】	
3 年間の歯科衛生士養成カリキュラムで学習した分野のうち、歯科衛生士国家試験に関わる専門基礎分野、専門分野について国家試験対策として総合的な講義を行う。また、現代の歯科衛生士に求められる最新の専門知識を習得する。	
【 到達目標（S B O） 】	
専門基礎分野・専門分野の科目に対する総合的講義を受け、歯科衛生士に必要な知識の総復習を行うことにより、歯科衛生士専門科目や科目間の関連性に対する理解を深めることができる。	
【 授業内容 】	
1 人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能（解剖学）	16 臨床歯科医学（保存修復学）
2 人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能（生理学）	17 臨床歯科医学（歯内療法学）
3 歯・口腔の構造と機能（組織・発生学）	18 臨床歯科医学（歯周治療学）
4 歯・口腔の構造と機能（生化学）	19 臨床歯科医学（歯科補綴学）
5 歯・口腔の構造と機能（口腔解剖学）	20 臨床歯科医学（口腔外科学）
6 歯・口腔の構造と機能（歯牙解剖学）	21 臨床歯科医学（歯科矯正学）
7 疾病の成り立ち及び回復過程の促進（病理学）	22 臨床歯科医学（小児歯科学）
8 疾病の成り立ち及び回復過程の促進（微生物学）	23 臨床歯科医学（歯科放射線学）
9 疾病の成り立ち及び回復過程の促進（薬理学）	24 臨床歯科医学（障害者歯科学）
10 疾病の成り立ち及び回復過程の促進（栄養学）	25 臨床歯科医学（高齢者歯科学）
11 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み（口腔衛生学）	26 歯科予防処置論（予防的歯石除去法Ⅰ）
12 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み（衛生・公衆衛生学）	27 歯科保健指導論（歯科保健指導Ⅰ）
13 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	28 歯科診療補助論（歯科診療補助論Ⅰ）
	29 歯科診療補助論（歯科材料学）

教科書・参考書	各学年で使用した教科書：歯科衛生士教本全般。それぞれ各科目の配布資料。
成績評価法	各科目ごとの演習総合点と課題提出等により総合的に評価します。
備考・実務経験等	歯科大学病院・歯科医院等に歯科医師として勤務